

板橋区障がい者実態調査 報告書（案） 【概要版】

令和2年10月

板橋区

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査対象	1
3. 調査期間	1
4. 調査方法	1
5. 回収状況	1
6. 調査結果の表示方法	1
第2章 調査結果	2
1. 障がい福祉への関心について.....	2
(1) 障がい者の知人・友人の有無	2
(2) 障がい者との活動経験	3
2. あなたの障がいの状況について.....	4
(1) 障がいの種類	4
(2) 障害者手帳	6
(3) 発達障がいの診断名	8
3. 介助・支援の状況について	10
(1) 介助・支援の必要性.....	10
4. 保護者の方について	11
(1) 発達・行動について気になり始めた時期	11
(2) 家族、知人以外の初めての相談先.....	13
(3) 保護者の現在の相談先	16
5. 福祉サービスについて	19
(1) 障がい者サービスの利用状況	19
(2) 障がい者サービスが必要になる状況.....	20
(3) 今後も引き続き利用したい、新たに利用したいサービス.....	21
6. 日中の過ごし方について	23
(1) 平日の日中の過ごし方	23
7. 就労の状況について	25
(1) 収入を伴う仕事の有無	25
(2) 仕事をする上での困りごと	26

8. 外出や余暇の過ごし方について.....	27
(1) 外出時の支援の有無.....	27
9. 差別、権利擁護などについて.....	28
(1) 差別や嫌な思いの経験.....	28
(2) 区民の障がい者への理解度.....	29
10. 取り組みなどについて.....	31
(1) 障がい者施策を進めるために充実させるべき取り組み.....	31

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

障がい者計画・障がい福祉計画（第6期）・障がい児福祉計画（第2期）の策定基礎資料として、調査を実施しました。

2. 調査対象

板橋区在住の障がい者、障がい児の方を中心に、区民の方を無作為抽出

3. 調査期間

令和2年2月28日（金）から令和2年3月31日（火）

4. 調査方法

郵送による配布・回収

5. 回収状況

調査区分	配布数（件）	有効回収数（件）	有効回答率
一般区民	1,000	363	36.3%
障がい者	4,100	1,684	41.1%
（内訳） 身体障がい	1,200	514	42.8%
知的障がい	900	381	42.3%
精神障がい	1,200	448	37.3%
難病	800	341	42.6%
障がい児	800	328	41.0%
（内訳） 身体障がい	400	134	33.5%
知的障がい	300	155	51.7%
精神障がい	100	39	39.0%
手帳を所持しない幼児 ※ （児童発達支援事業者利用者）	100	38	38.0%
（計）	6,000	2,413	40.2%

「※」の調査については、調査票を事業者経由で利用者に配付した。

6. 調査結果の表示方法

・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率である回答比率になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

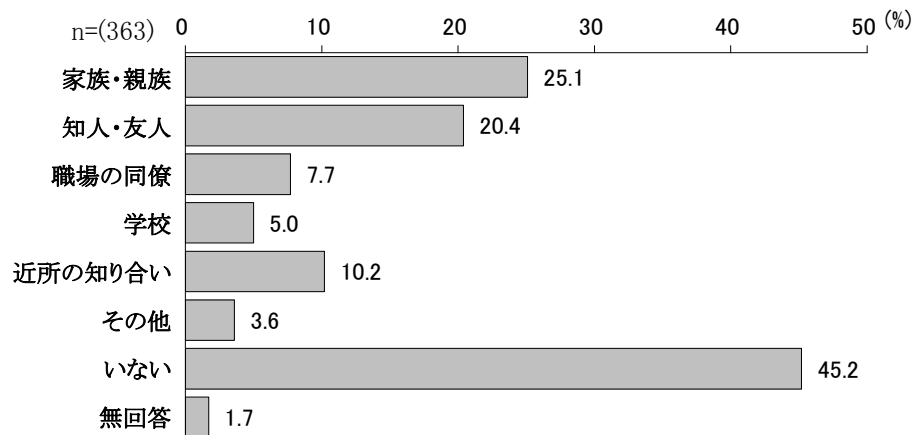
第2章 調査結果

1. 障がい福祉への関心について

(1) 障がい者の知人・友人の有無

【一般区民】

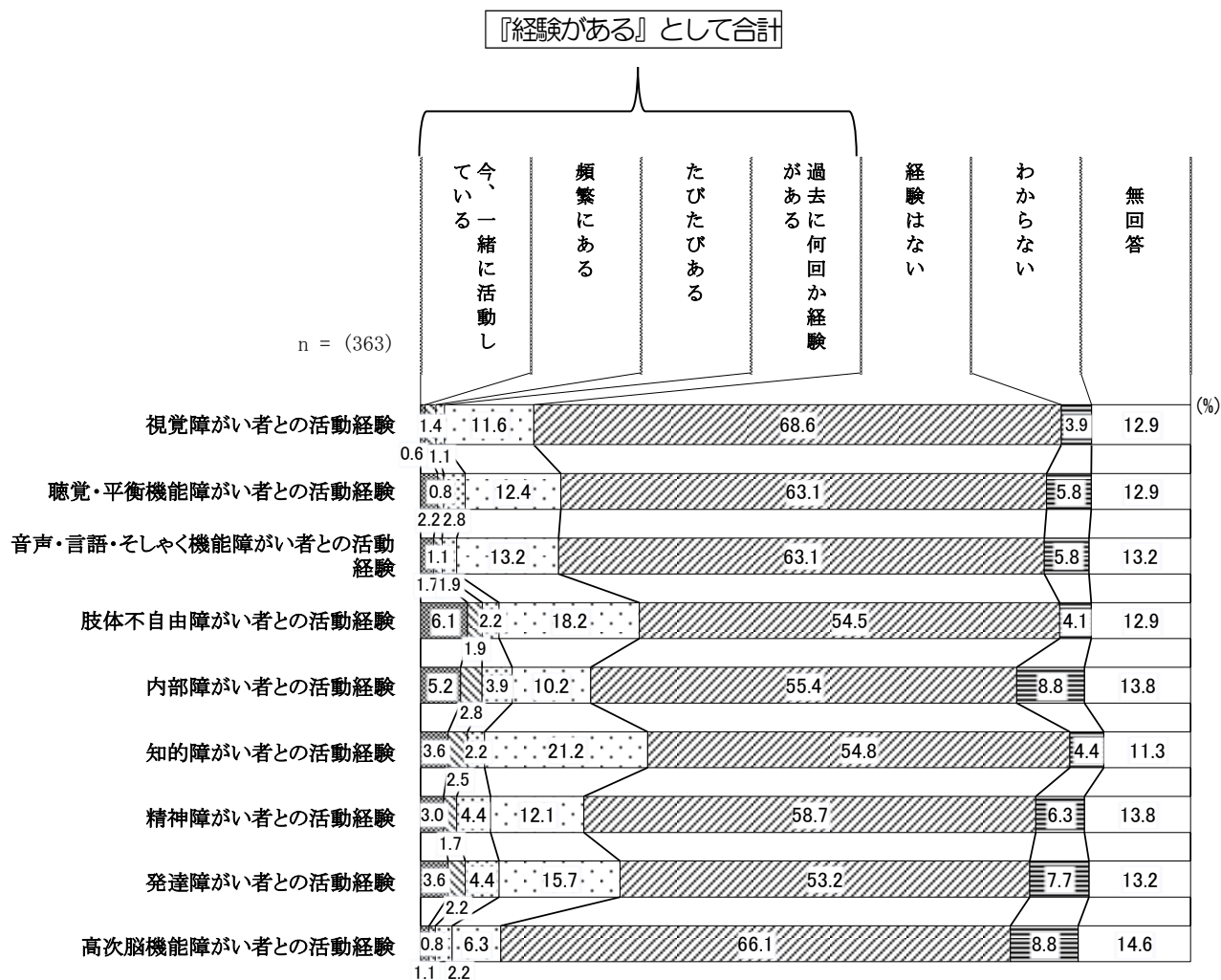
「家族・親族」の割合が25.1%、「友人・知人」の割合が20.4%となっています。
一方で、「いない」の割合が45.2%と最も高くなっています。



(2) 障がい者との活動経験

【一般区民】

「今、一緒に活動している」と「頻繁にある」と「たびたびある」と「過去に何回か経験がある」を足した『経験がある』の割合は、知的障がい者が最も高くなっています。

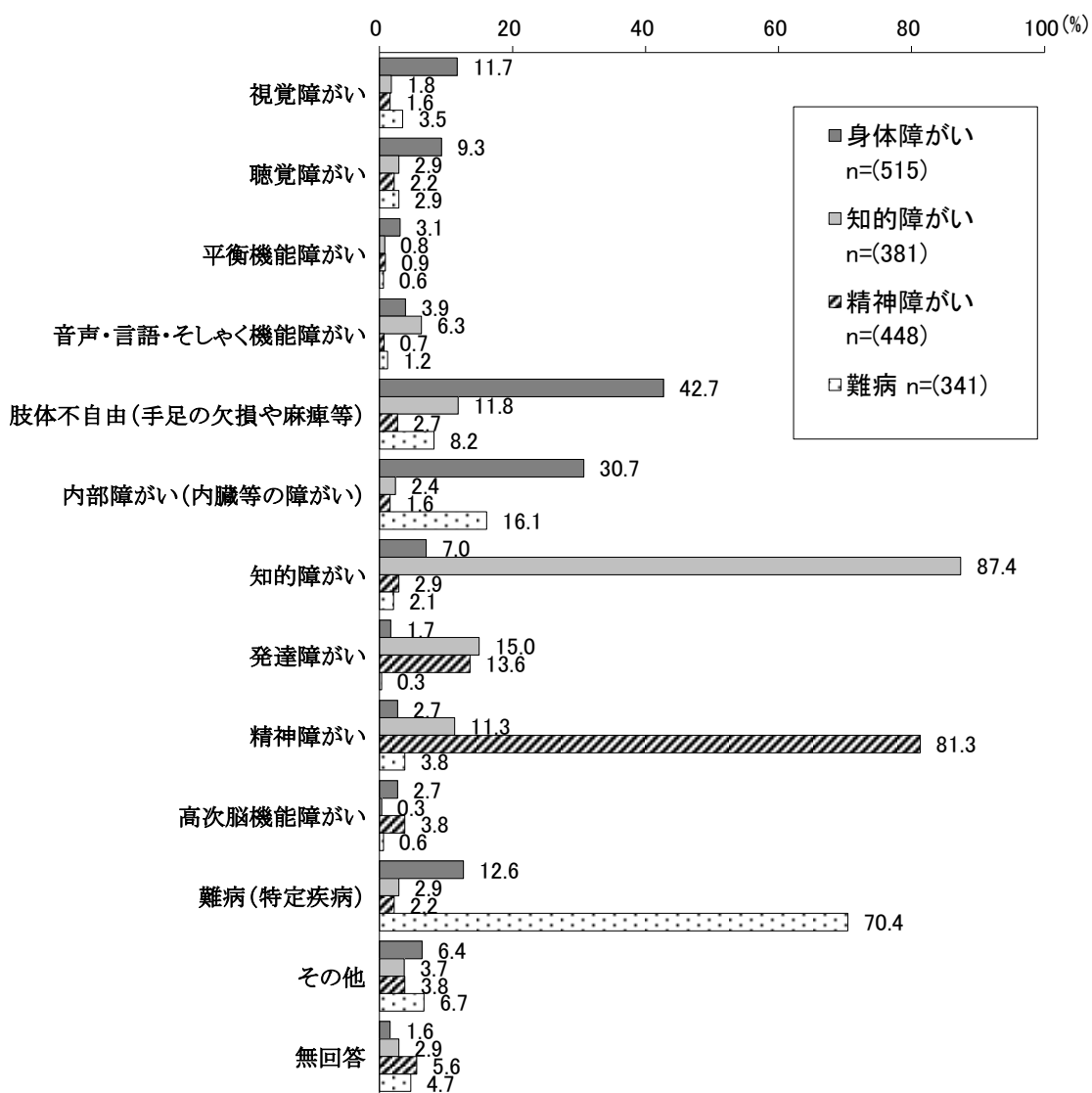


2. あなたの障がいの状況について

(1) 障がいの種類

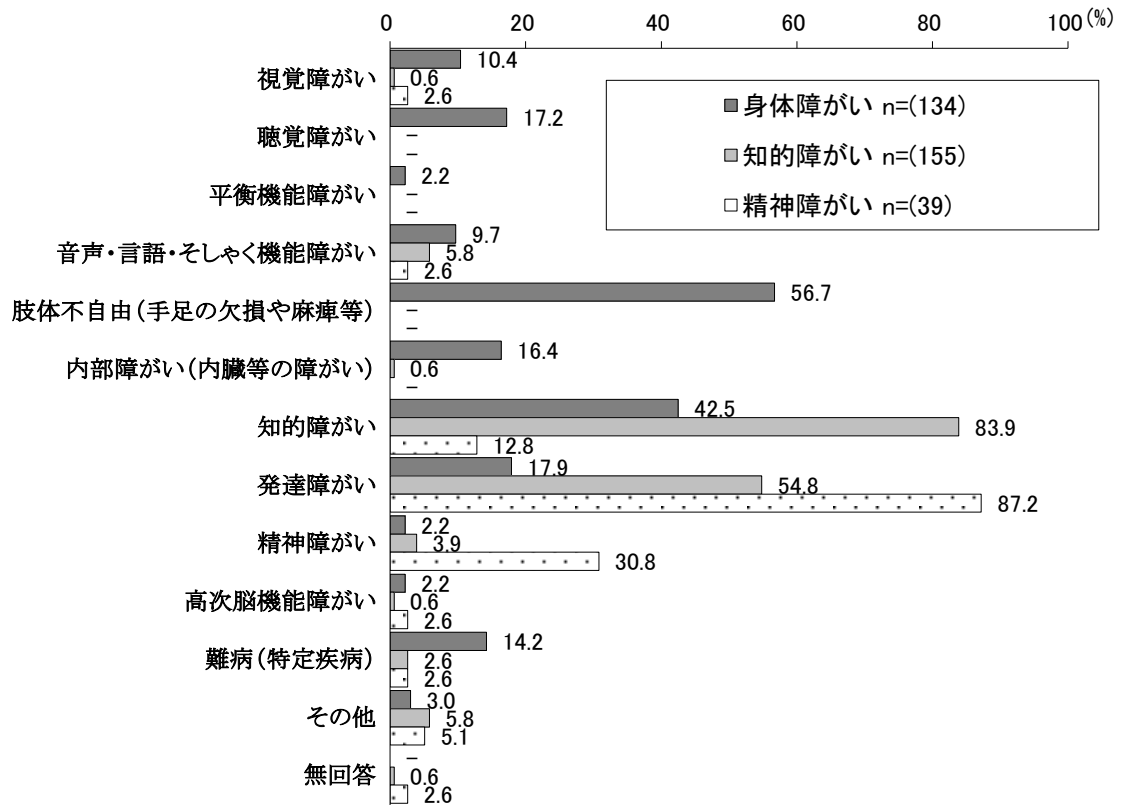
【障がい者】

障がい種別で見ると、身体障がい者で「肢体不自由」の割合が最も高くなっています。知的障がい者では、「知的障がい」のほかには、「発達障がい」の割合が高くなっています。精神障がい者では、「精神障がい」のほかには、「発達障がい」の割合が高くなっています。難病患者では、「難病」のほかには、「内部障がい」の割合が高くなっています。



【障がい児】

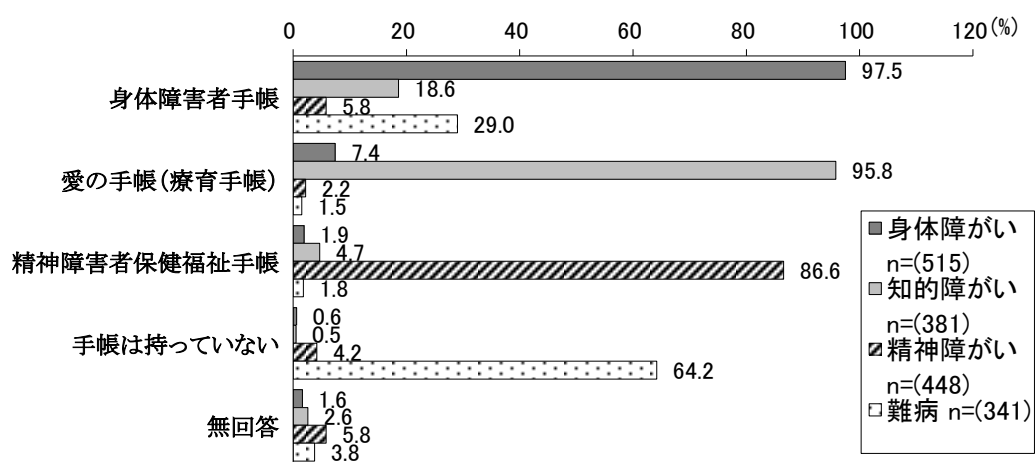
障がい種別でみると、身体障がい児で「肢体不自由」の割合が高く、次いで「知的障がい」の割合が高くなっています。知的障がい児では、「知的障がい」のほかには、「発達障がい」の割合が高くなっています。精神障がい児では、「発達障がい」の割合が高く、次いで「精神障がい」の割合が高くなっています。



(2) 障害者手帳

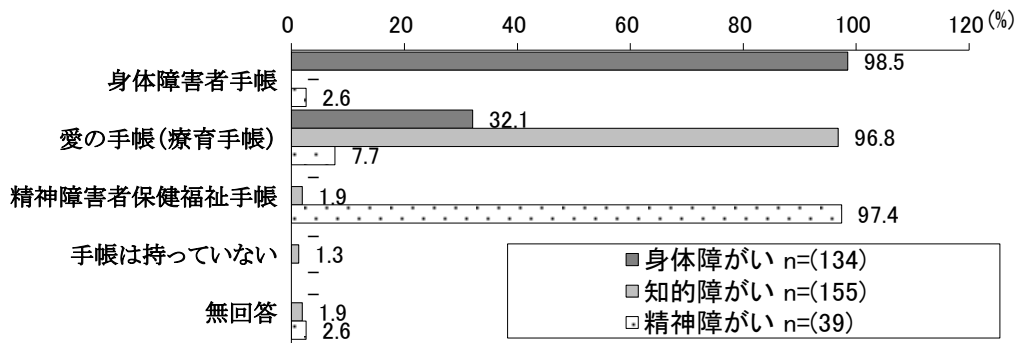
【障がい者】

障がい種別で見ると、身体障がい者では、「身体障害者手帳」のほかには、「愛の手帳（療育手帳）」の割合も若干高くなっています。知的障がい者では、「愛の手帳（療育手帳）」のほかには、「身体障害者手帳」の割合も少し高くなっています。精神障がい者では、「精神障がい者保健福祉手帳」のほかには、「身体障害者手帳」の割合もわずかに高くなっています。難病患者では、「手帳は持っていない」の割合が高く、次いで「身体障害者手帳」の割合が高くなっています。



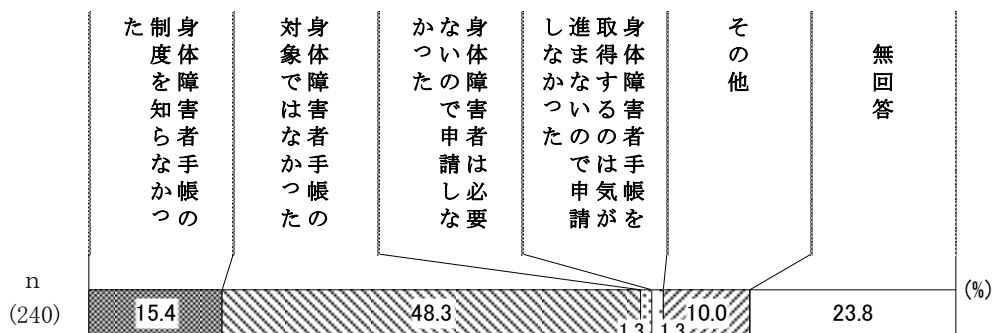
【障がい児】

障がい種別で見ると、身体障がい児では「身体障害者手帳」だけでなく、「愛の手帳（療育手帳）」の割合も高くなっています。知的障がい児で「愛の手帳（療育手帳）」の割合が、精神障がい児で「精神障害者保健福祉手帳」の割合が高くなっています。



【身体障害者手帳を取得しなかった理由（難病）】

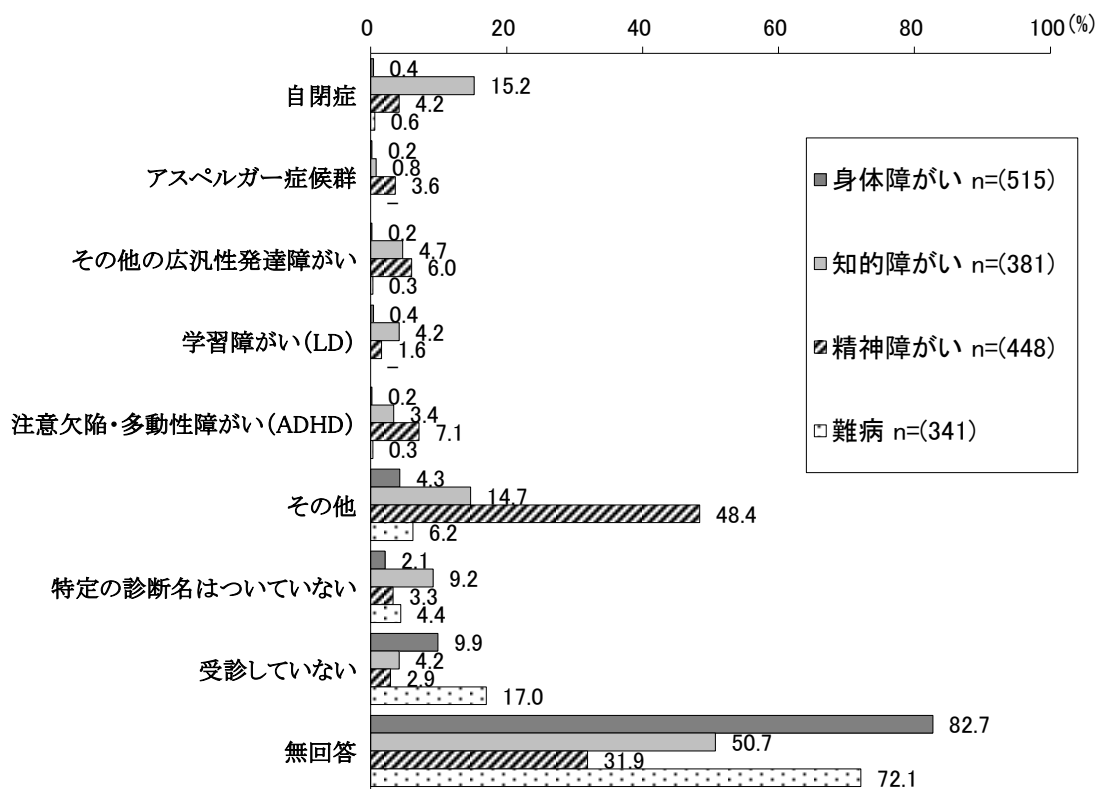
難病の方で身体障害者手帳を取得しなかった理由は「身体障害者手帳の対象ではなかった」の割合が高くなっていますが、次いで「身体障害者手帳の制度をしらなかった」割合が高くなっています。



(4) 発達障がいの診断名

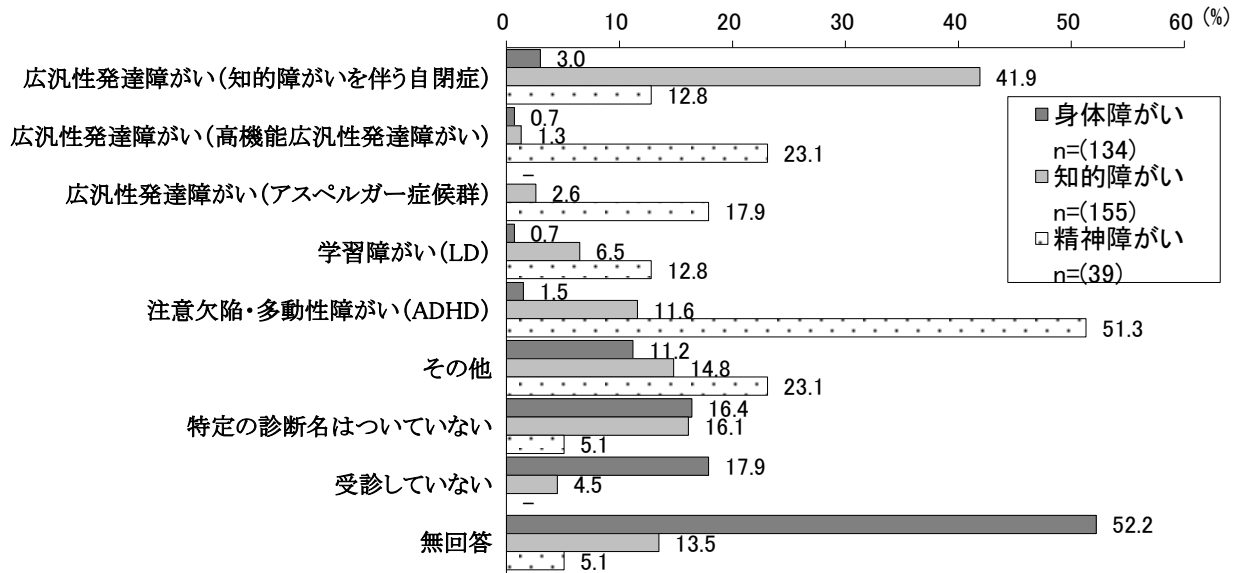
【障がい者】

障がい種別でみると、身体障がい者では「受診していない」の割合が高くなっています。知的障がい者では「自閉症」の割合が高くなっています。精神障がい者で「ADHD」の割合が高くなっています。難病患者では「受診していない」の割合が高くなっています。



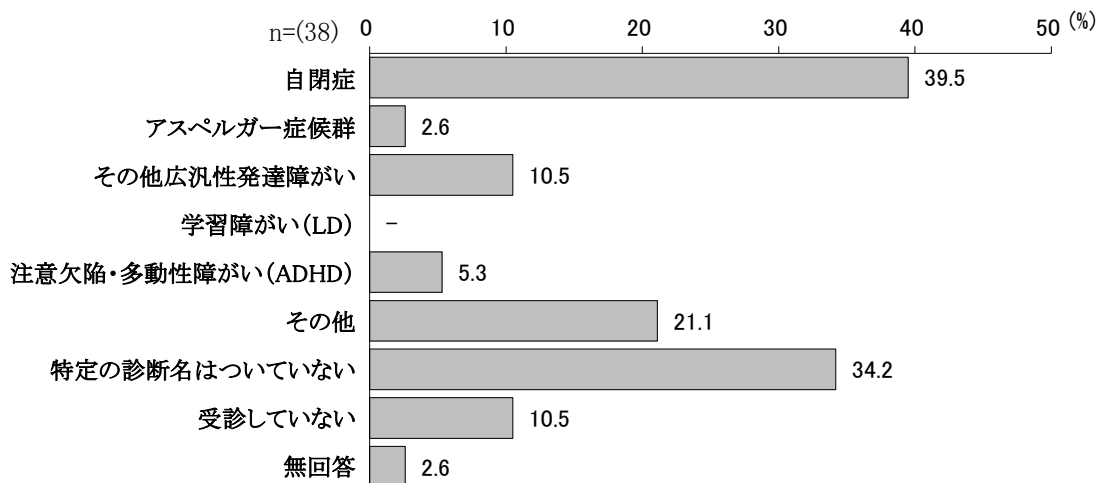
【障がい児】

障がい種別でみると、身体障がい児は「受診していない」の割合が高くなっています。知的障がい児の「知的障がいを伴う自閉症」の割合が高くなっています。また精神障がい児の「ADHD」の割合が高くなっています。



【手帳を所持しない幼児（児童発達支援事業者利用者）】

自閉症の割合が高くなっています。

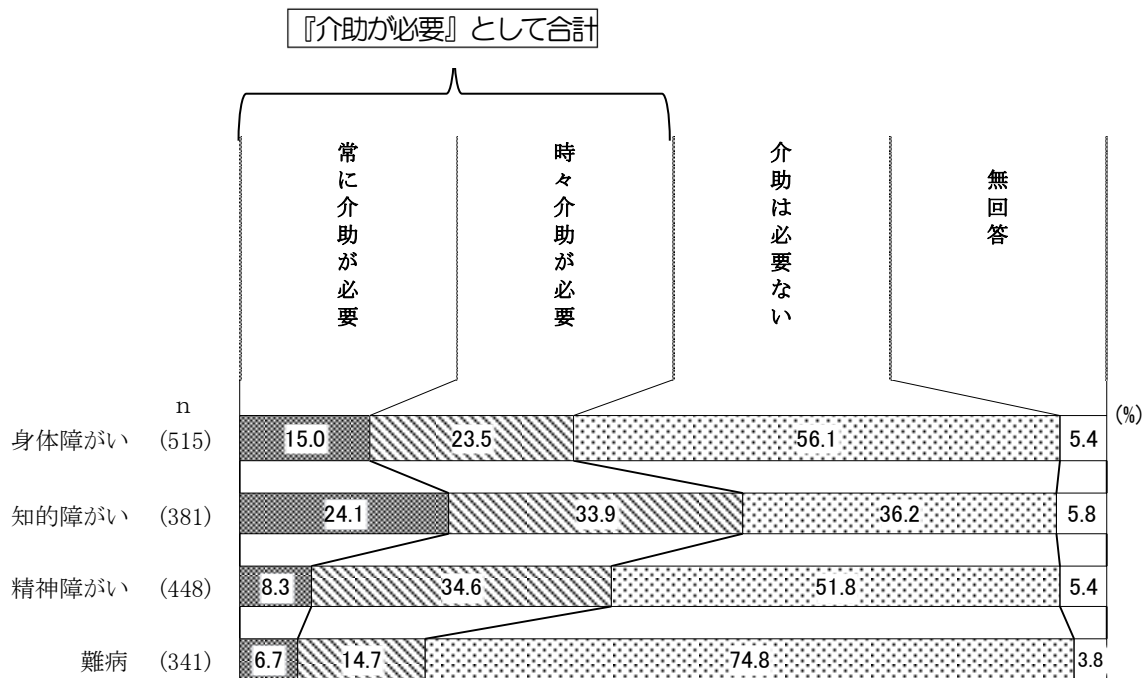


3. 介助・支援の状況について

(1) 介助・支援の必要性

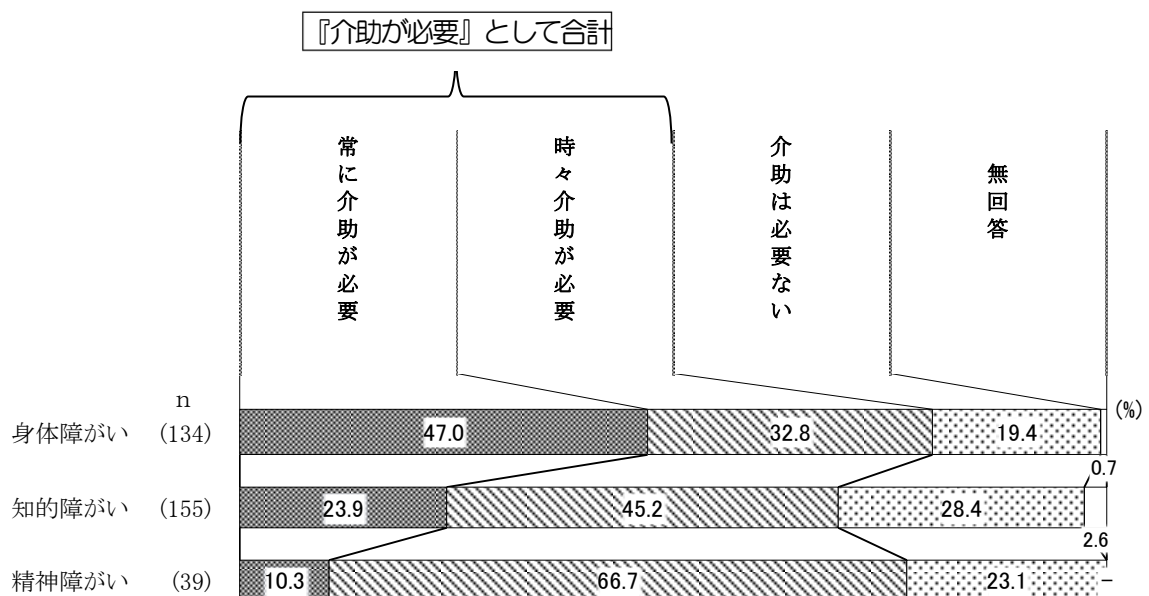
【障がい者】

「常に介助が必要」と「時々介助が必要」を足した『介助が必要』の割合は、「知的障がい者」が最も高くなっています。



【障がい児】

「常に介助が必要」と「時々介助が必要」を足した『介助が必要』の割合は、障がい種別でみると、「身体障がい児」が最も高くなっています。



4. 保護者の方について

(1) 発達・行動について気になり始めた時期

【障がい者】

障がい種別で見ると、身体障がい、知的障がいで「6か月健診」の割合が高くなっています。精神障がい、難病患者で「18歳以上」の割合が高くなっています。

	6か月健診	1歳半健診	3歳未満	3歳～就学前	小学生(1～3年)	小学生(4～6年)	中学生	15(中学卒業後)～18歳	18歳以上	無回答
身体障がい	22.9	6.5	4.6	2.6	1.3	-	-	0.7	5.2	56.2
知的障がい	30.0	16.5	17.1	10.0	8.8	1.8	1.2	1.2	2.4	11.2
精神障がい	2.1	5.7	3.5	4.3	5.0	2.1	3.5	7.8	10.6	55.3
難病	1.5	3.1	1.5	-	1.5	-	4.6	-	10.8	76.9

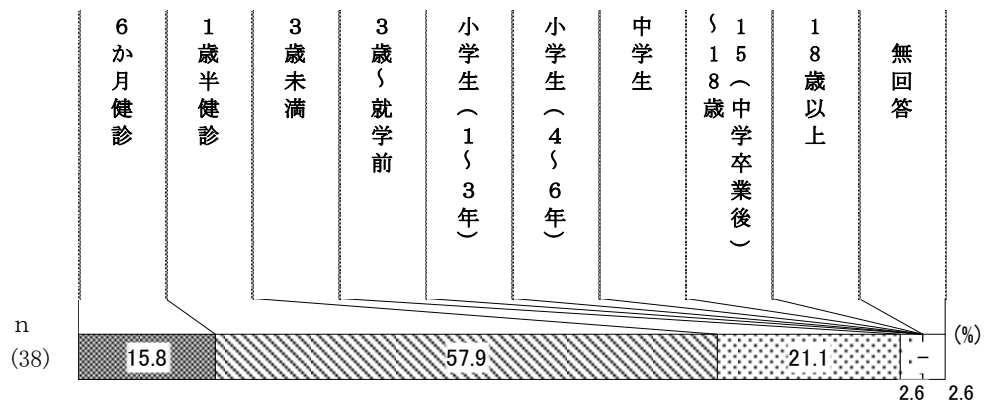
【障がい児】

障がい種別で見ると、身体障がい児は「6か月健診」の割合が高くなっています。知的障がい児は「1歳半健診」の割合が高くなっています。精神障がい児は「3歳～就学前」の割合が高くなっています。

	6か月健診	1歳半健診	3歳未満	3歳～就学前	小学生(1～3年)	小学生(4～6年)	中学生	15(中学卒業後)～18歳	無回答
身体障がい	52.2	9.0	14.2	4.5	0.7	-	-	-	19.4
知的障がい	18.7	27.1	24.5	16.8	6.5	1.3	1.3	-	3.9
精神障がい	10.3	23.1	15.4	43.6	5.1	2.6	-	-	-

【手帳を所持しない幼児（児童発達支援事業者利用者）】

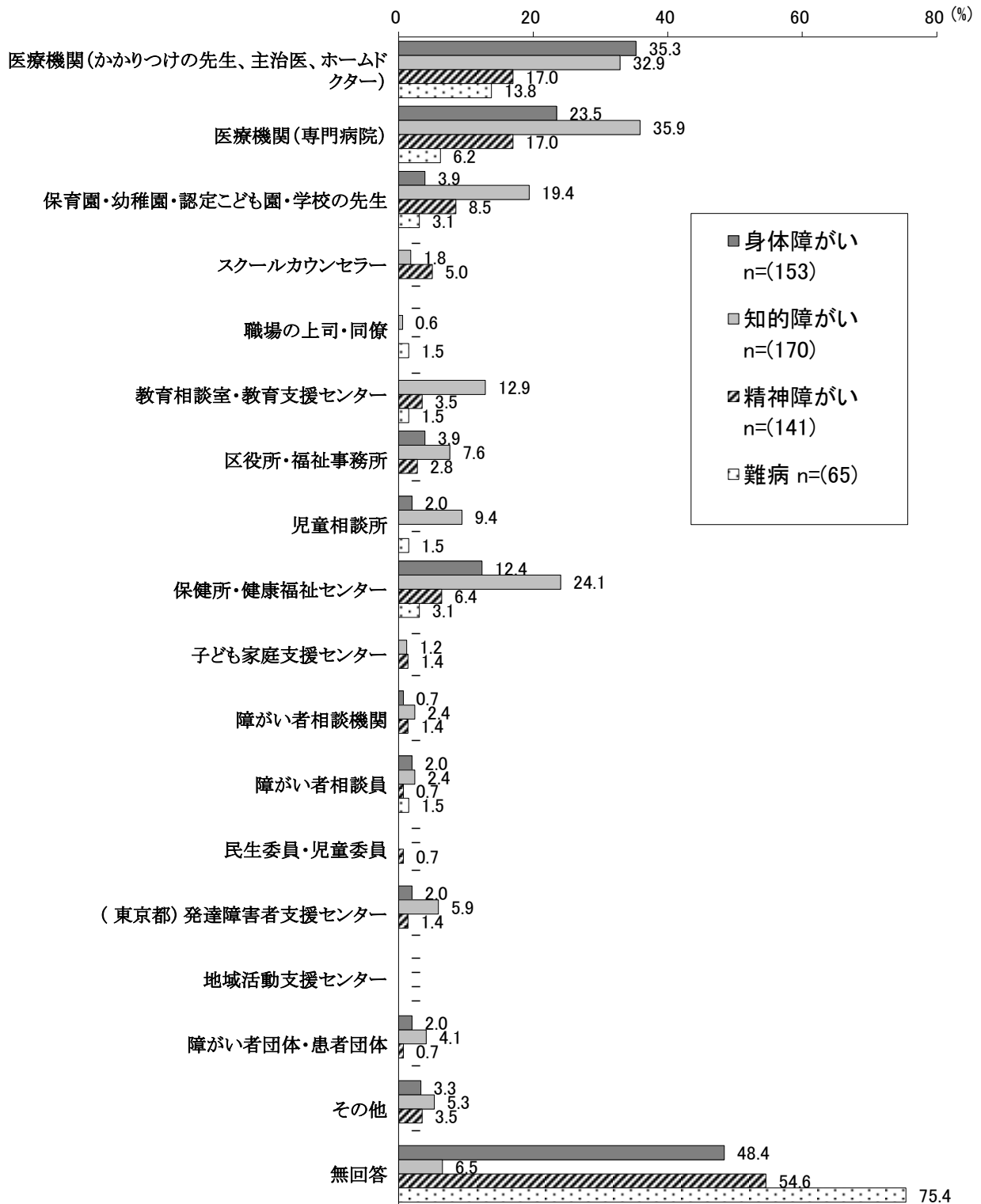
「1歳半健診」の割合が高くなっています。



(2) 家族、知人以外の初めての相談先

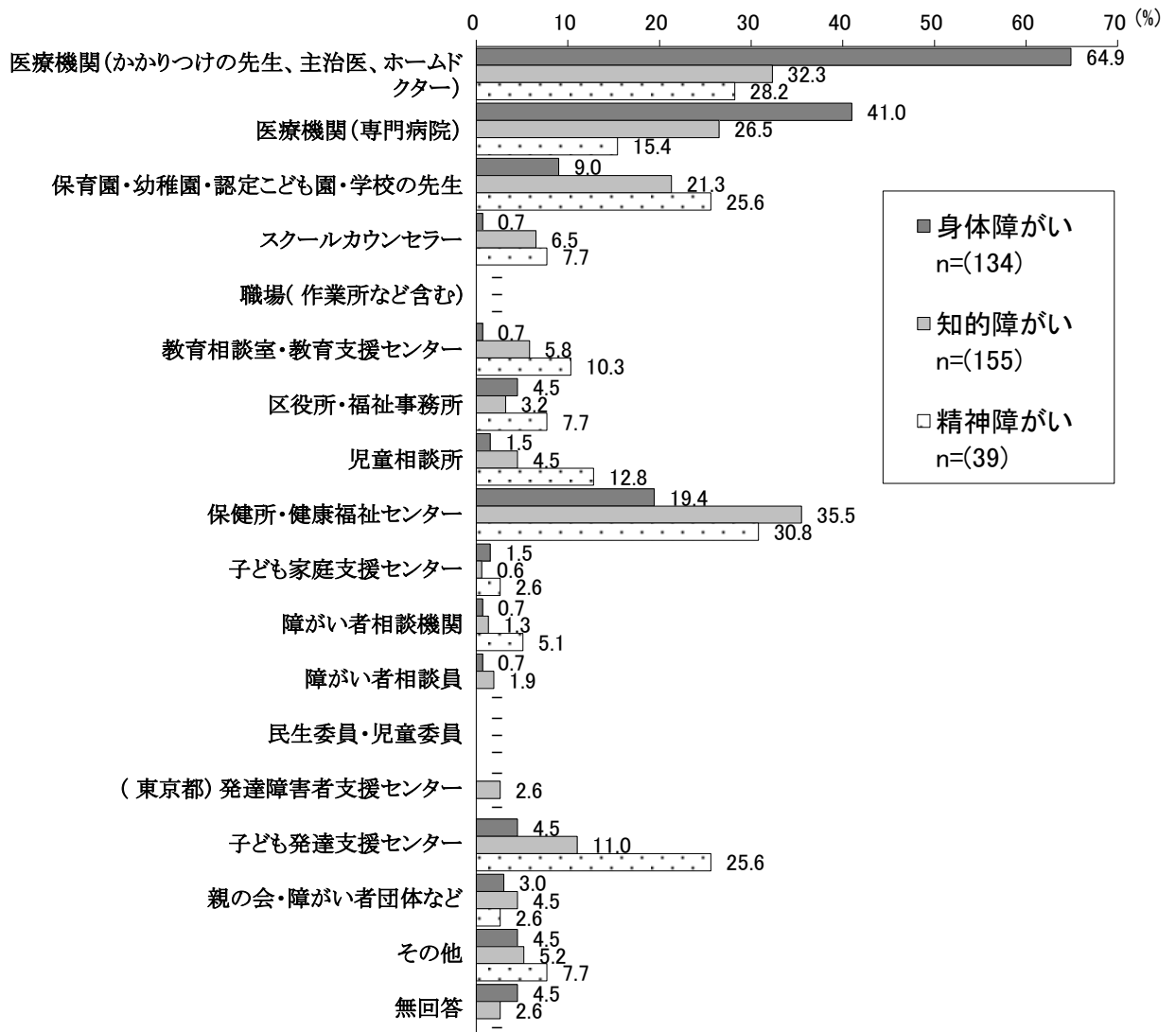
【障がい者】

どの障がいで、**「医療機関」**の割合が高くなっています。



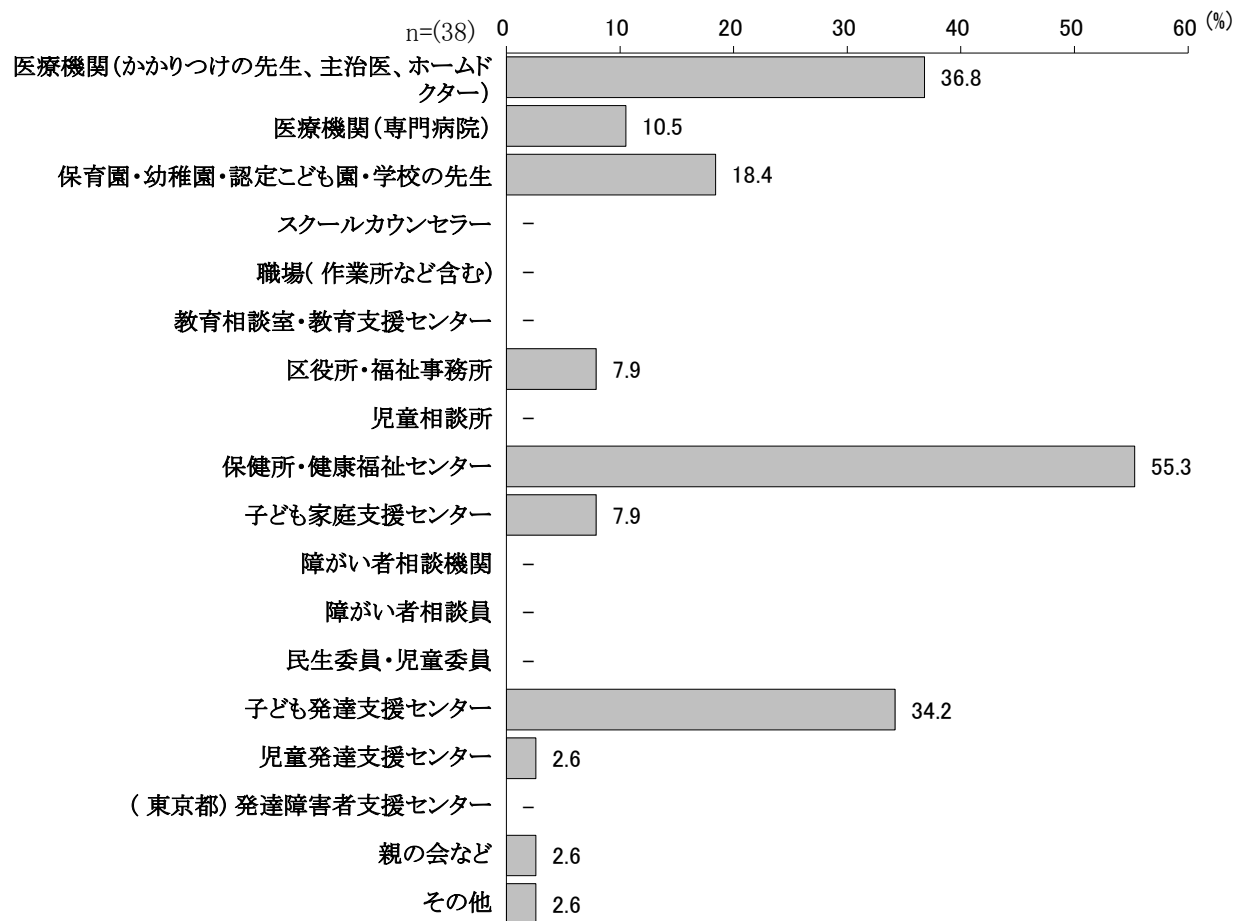
【障がい児】

障がい種別でみると、どの障がい児も「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」の割合が高くなっています。知的障がい児、精神障がい児では「保健所・健康福祉センター」の割合も高くなっています。



【手帳を所持しない幼児（児童発達支援事業者利用者）】

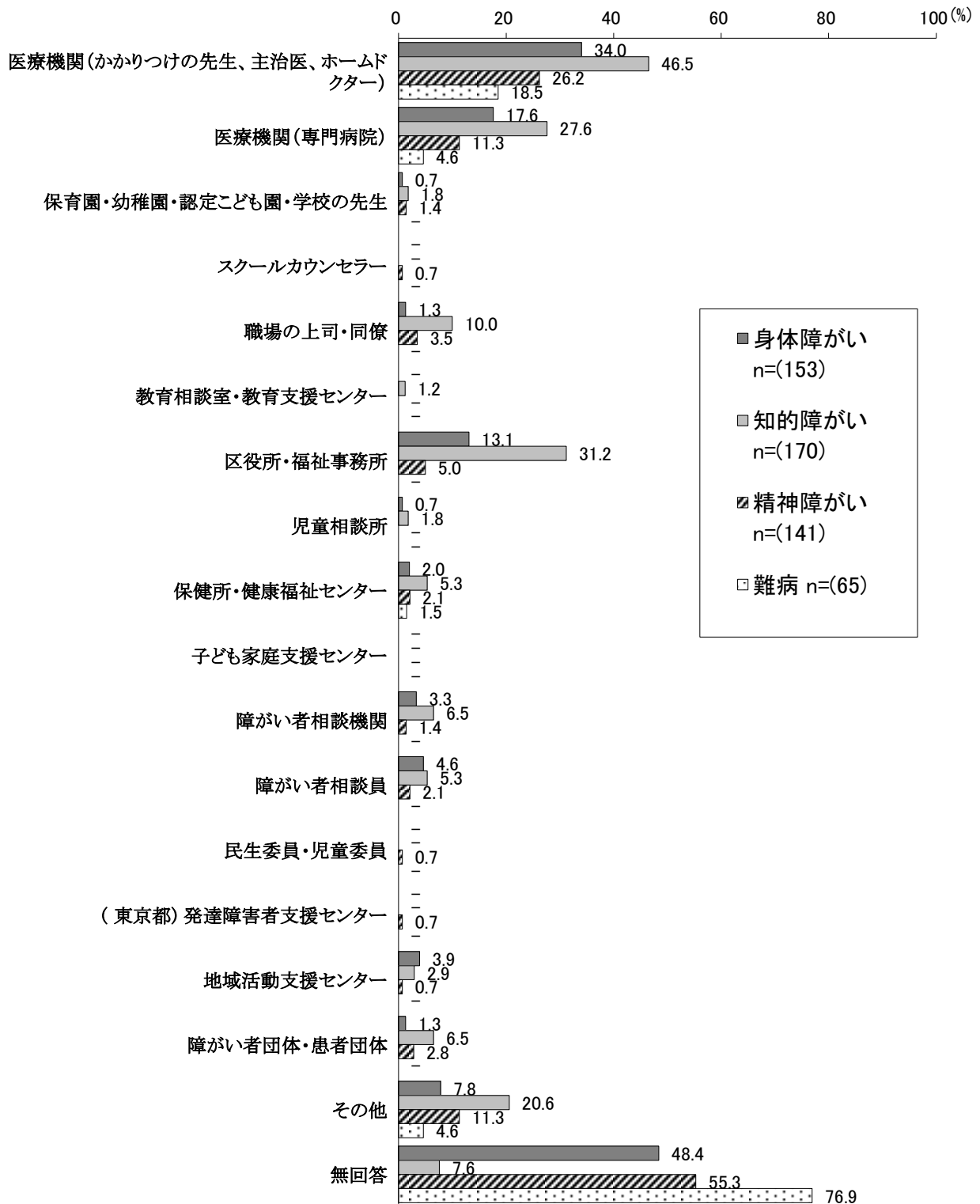
「保健所・健康福祉センター」、「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」、「子ども発達支援センター」の割合が高くなっています。



(3) 保護者の現在の相談先

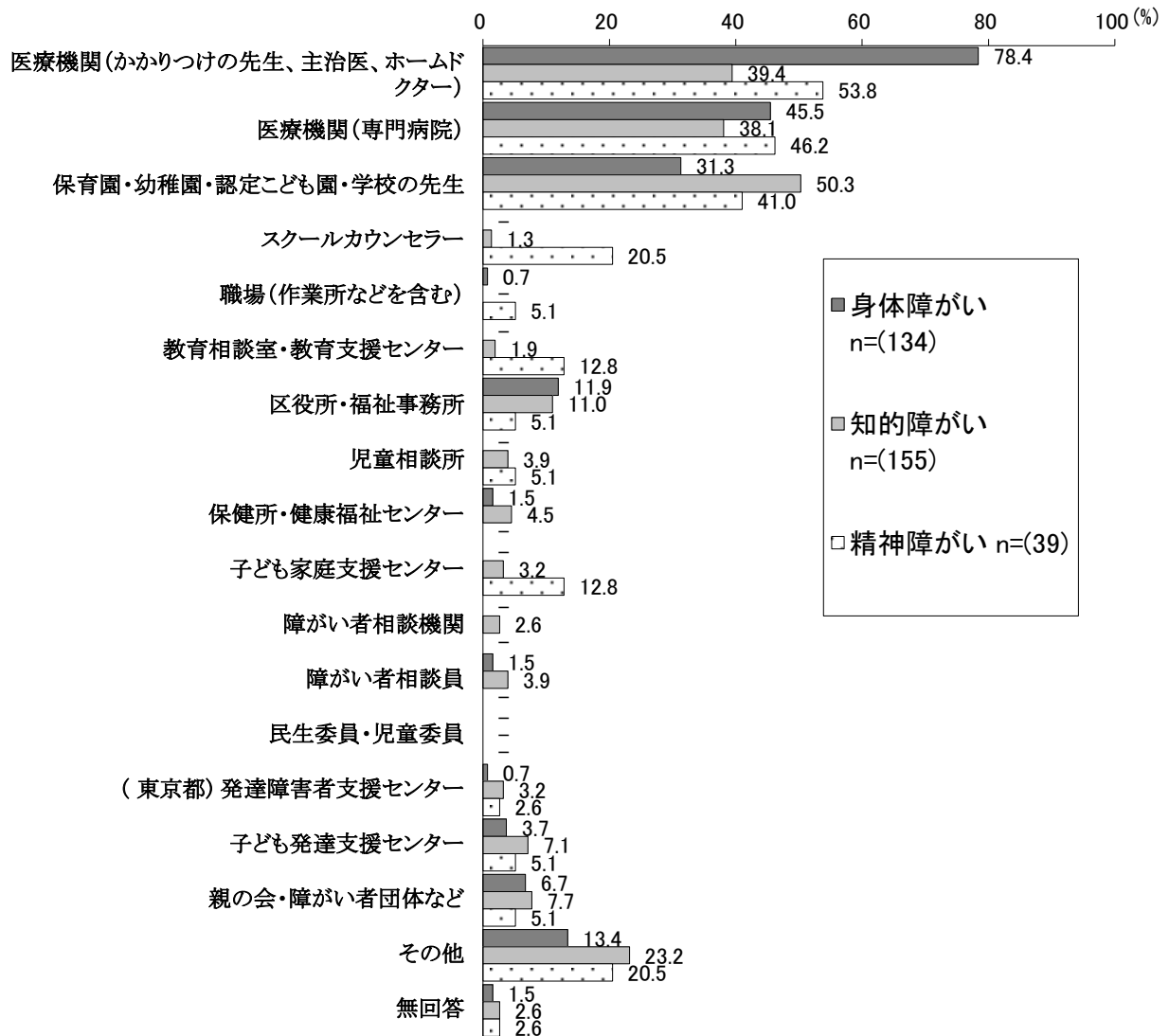
【障がい者】

障がい種別でみると、どの障がい者も「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」の割合が高くなっています。知的障がい者は「区役所・福祉事務所」や「医療機関（専門病院）」の割合も高くなっています。



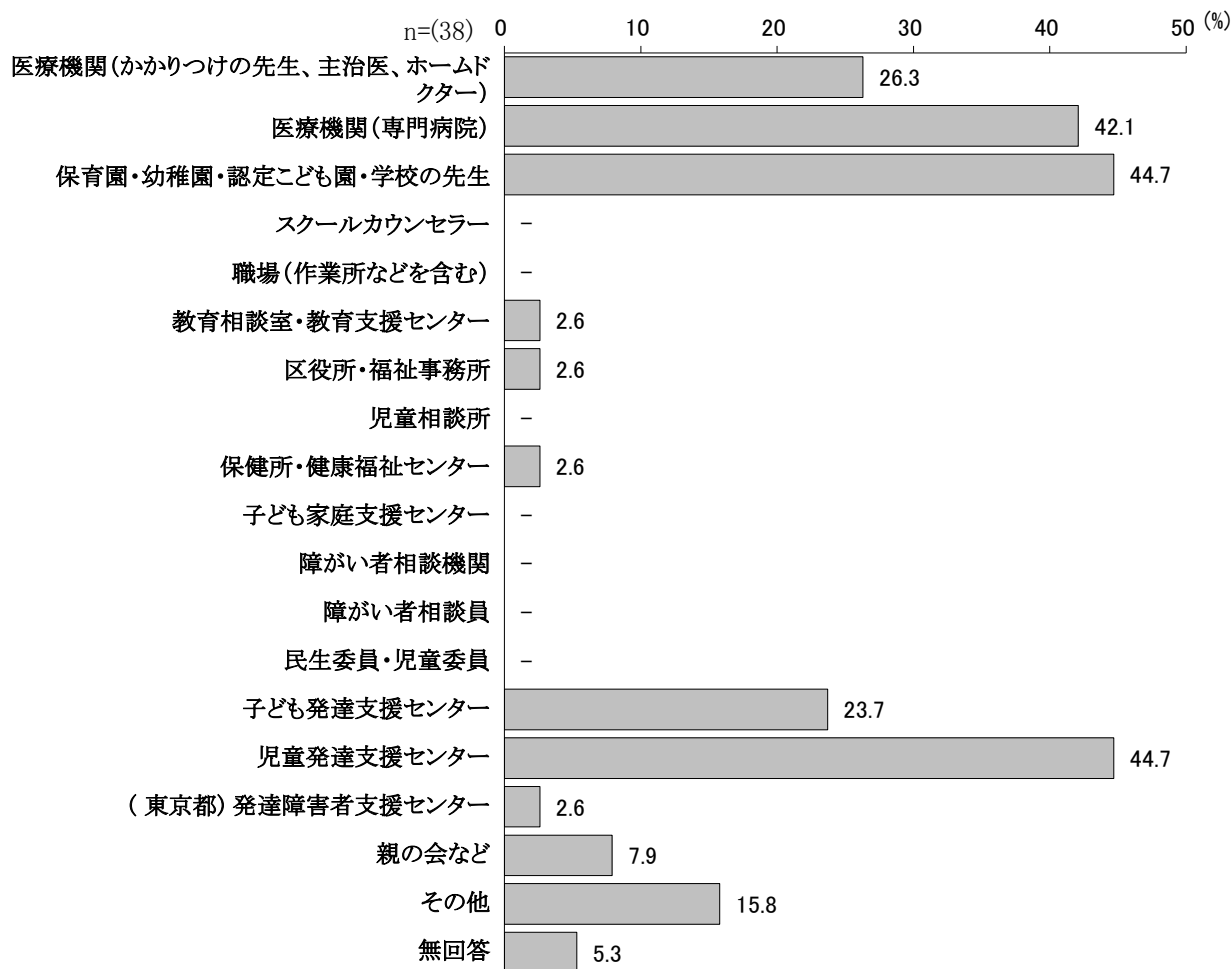
【障がい児】

障がい種別で見ると、身体障がい児と精神障がい児は「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」、「医療機関（専門病院）」、「保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生」の順で割合が高くなっています。また、知的障がい児は「保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生」、「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」、「医療機関（専門病院）」の順で割合が高くなっています。



【手帳を所持しない幼児（児童発達支援事業者利用者）】

「保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生」、「児童発達支援センター」、「医療機関（専門病院）」の順で割合が高くなっています。

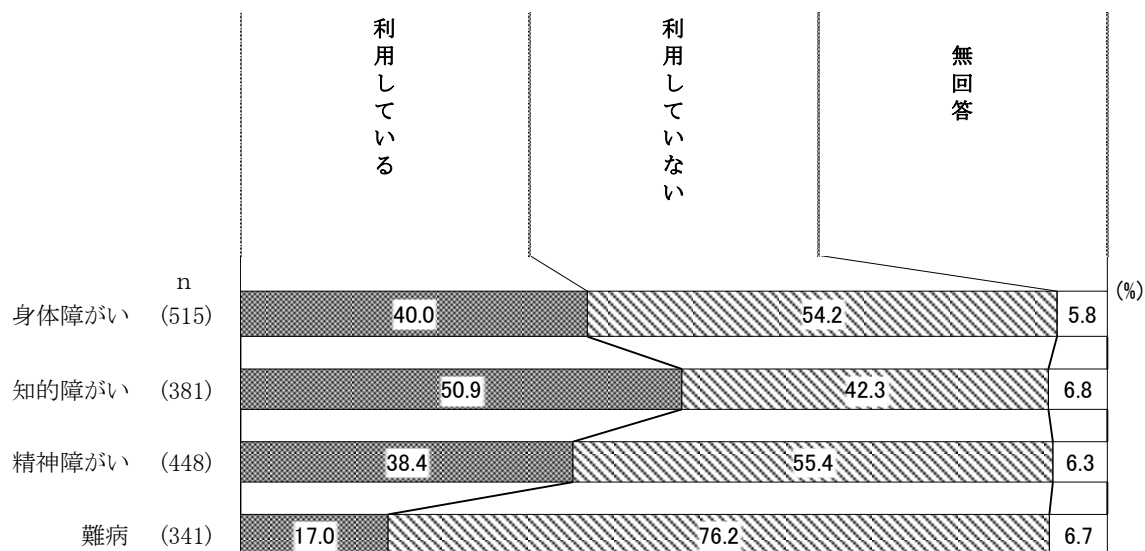


5. 福祉サービスについて

(1) 障がい者サービスの利用状況

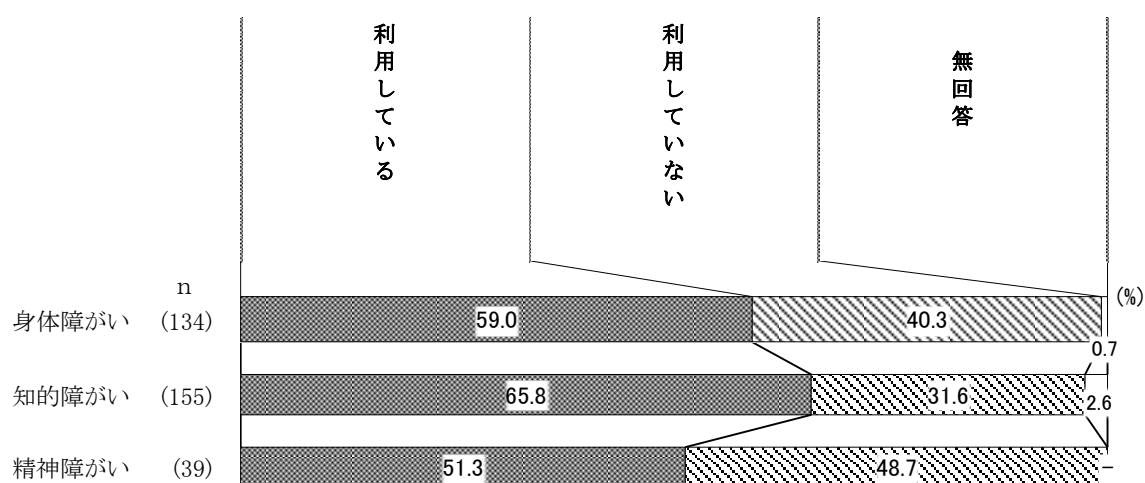
【障がい者】

障がい種別で見ると、知的障がいでは「利用している」の割合が高くなっていますが、その他の種別では「利用していない」割合が高くなっています。



【障がい児】

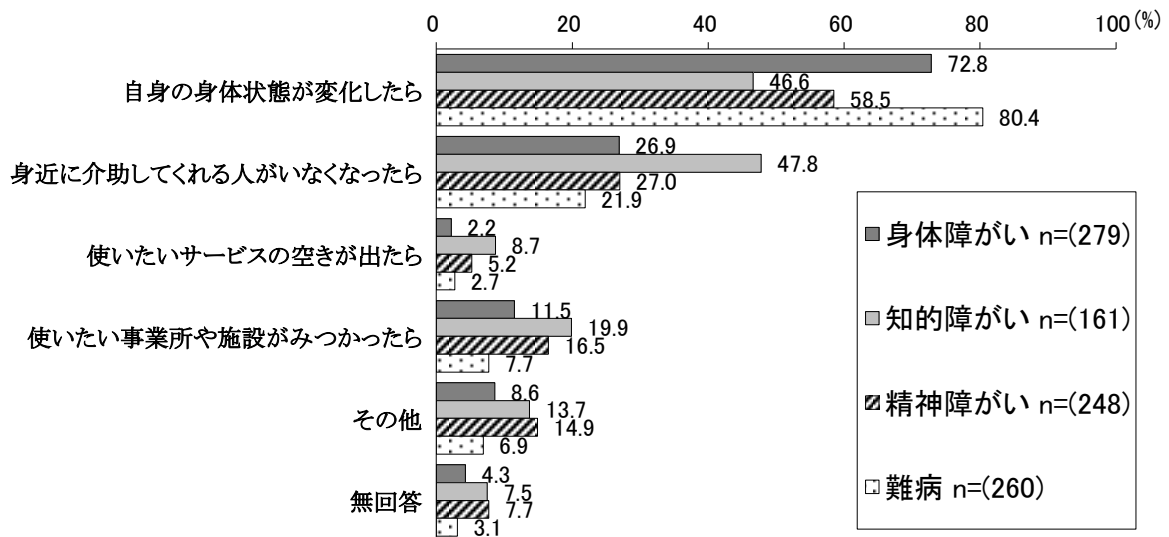
どの障がい児でも「利用している」割合が高くなっています。



(2) 障がい者サービスが必要になる状況

【障がい者】

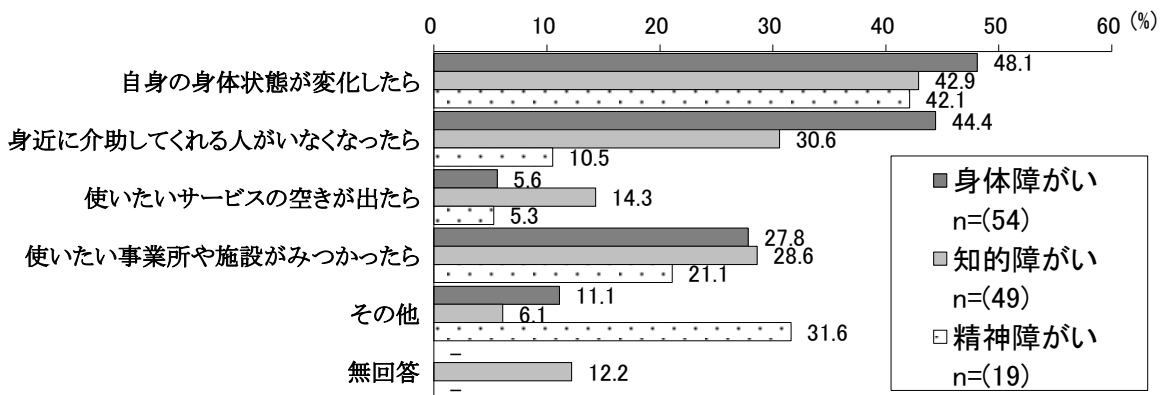
障がい種別で見ると、身体障がい者、精神障がい者、難病患者で「自身の身体状態が変化したら」の割合が高くなっています。また、知的障がい者で「身近に介助してくれる人がいなくなったら」の割合が高くなっています。



【障がい児】

どの障がい児でも「自身の身体状態が変化したら」の割合が高くなっています。

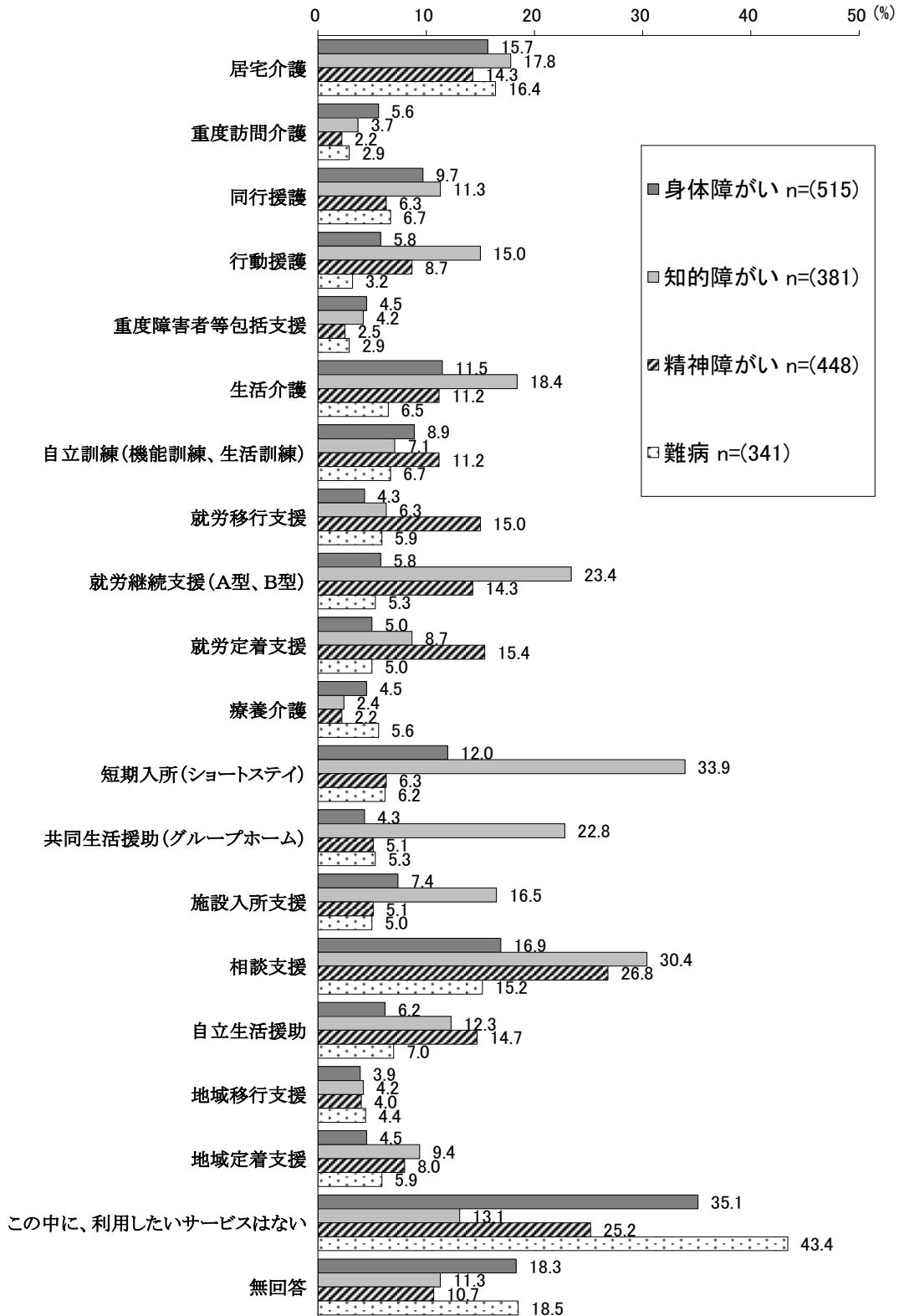
また、身体障がい児では、「身近に介助してくれる人がいなくなったら」の割合も高くなっています。



(3) 今後も引き続き利用したい、新たに利用したいサービス

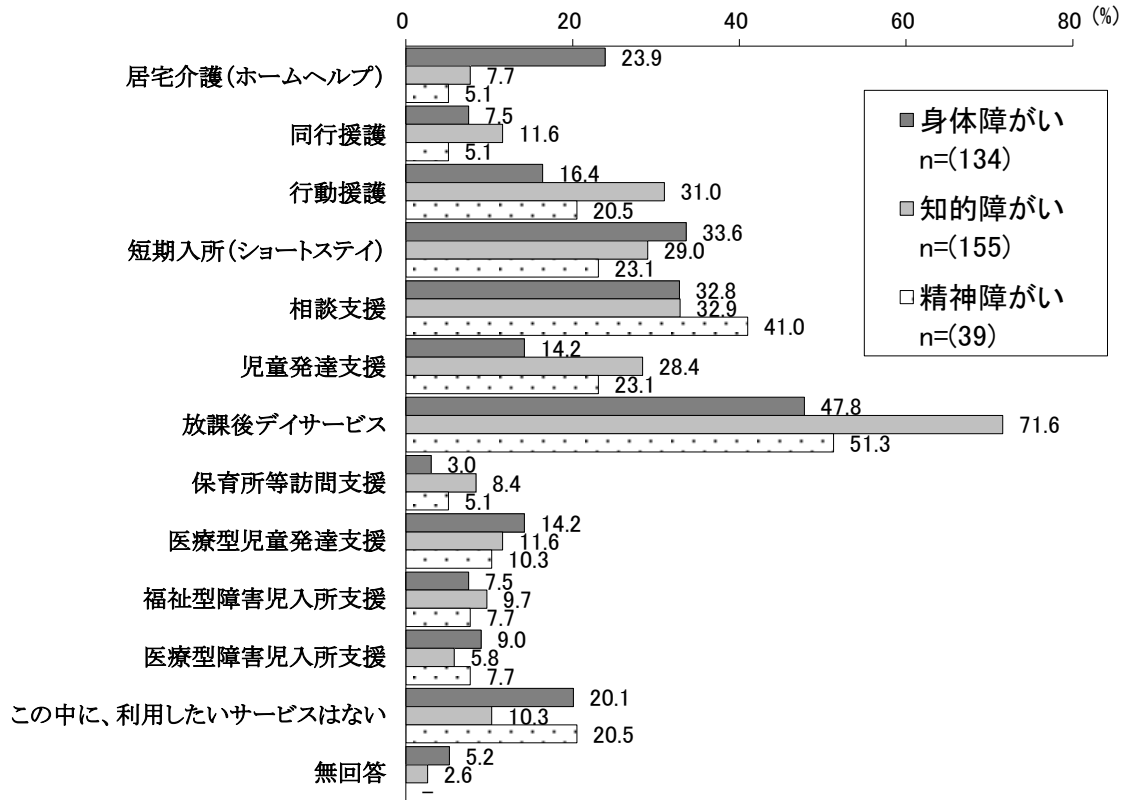
【障がい者】

どの障がい者でも、「相談支援」の割合が高く、知的障がい者では「短期入所（ショートステイ）」、難病患者では「居宅介護」の割合が最も高くなっています。



【障がい児】

障がい種別でみると、どの障がい児も「放課後デイサービス」の割合が高くなっています。

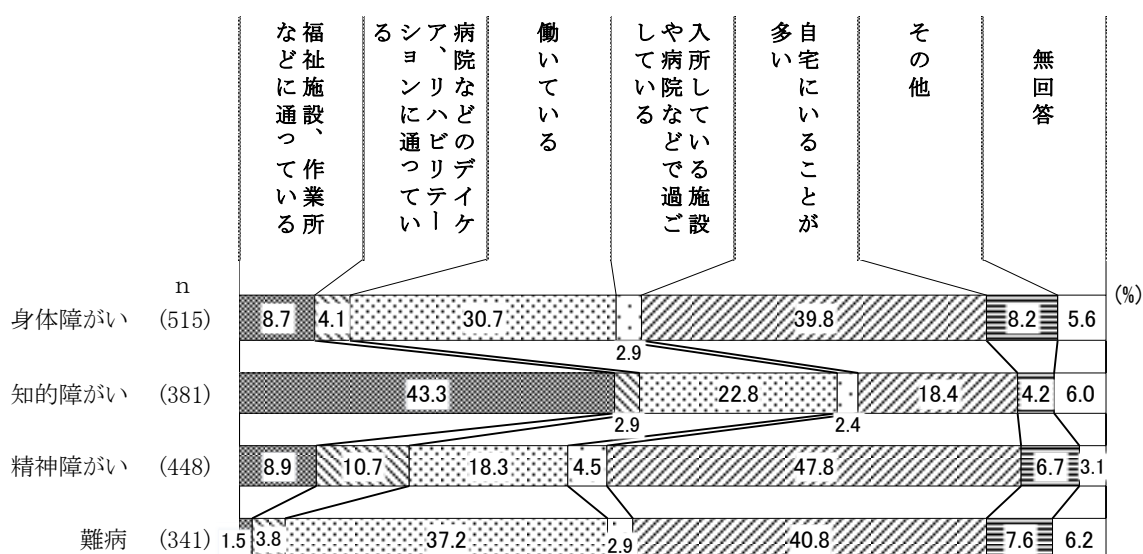


6. 日中の過ごし方について

(1) 平日の日中の過ごし方

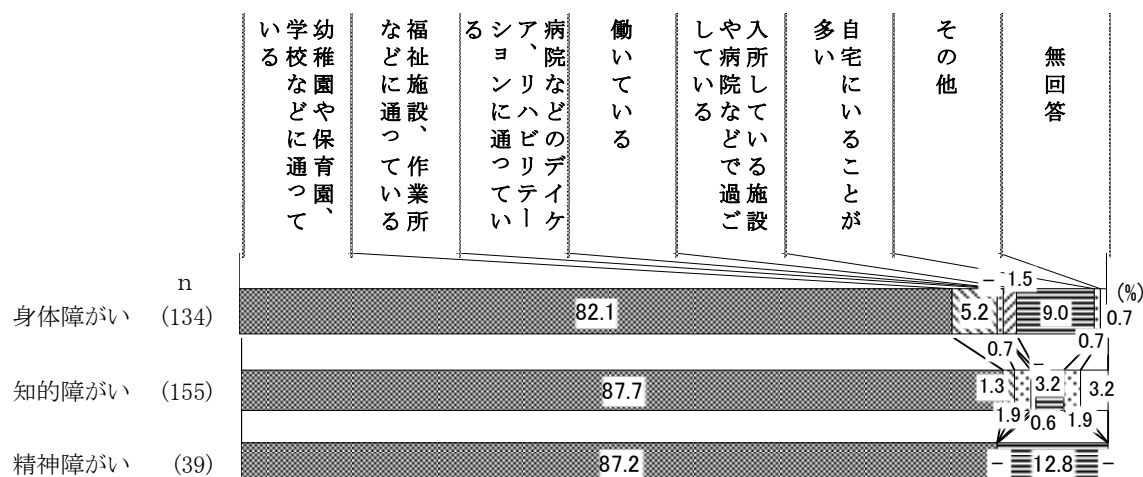
【障がい者】

障がい種別で見ると、身体障がい者と、難病患者は「働いている」の割合が高くなっています。知的障がい者は「福祉施設、作業所などに通っている」の割合が高くなっています。身体障がい者、精神障がい者、難病患者は「自宅にすることが多い」の割合が高くなっています。



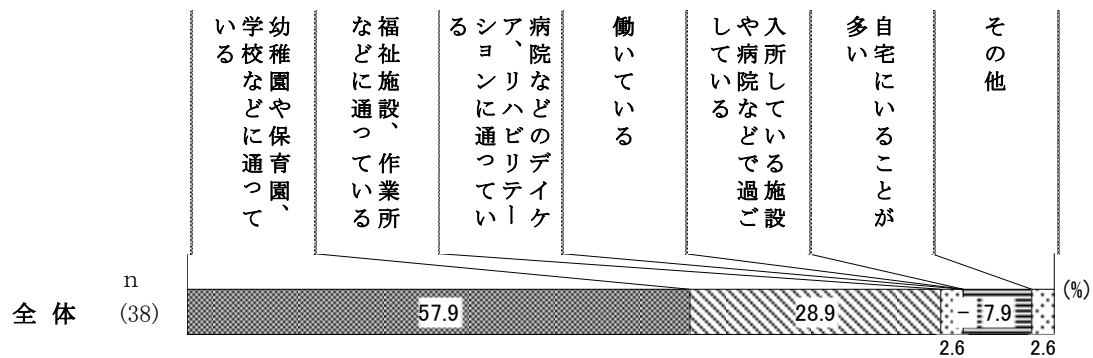
【障がい児】

どの障がい児でも「幼稚園や保育園、学校などに通っている」の割合が高くなっています。



【手帳を所持しない幼児（児童発達支援事業者利用者）】

「幼稚園や保育園、学校などに通っている」の割合が高くなっています。

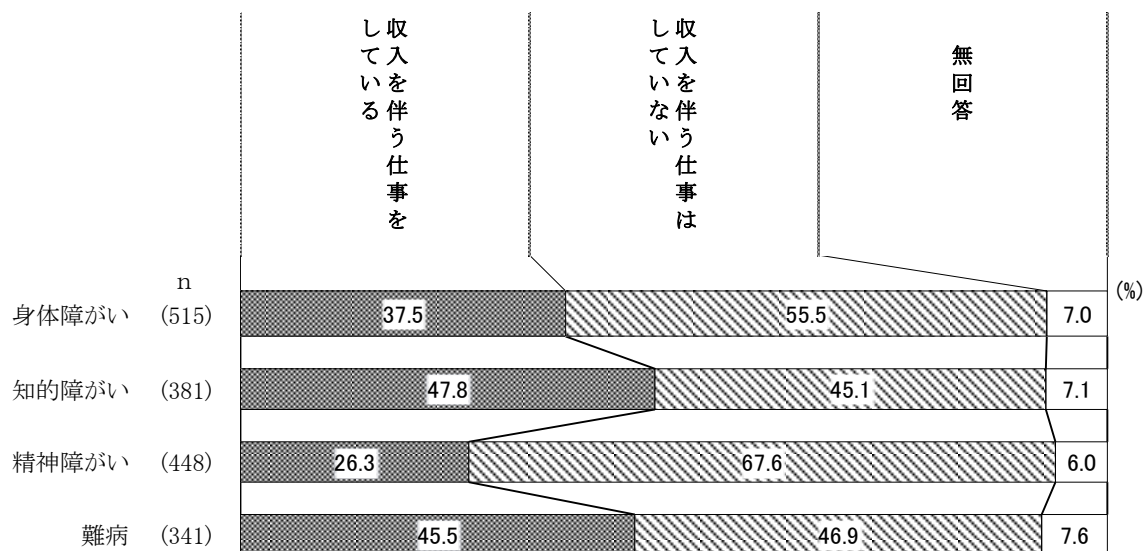


7. 就労の状況について

(1) 収入を伴う仕事の有無

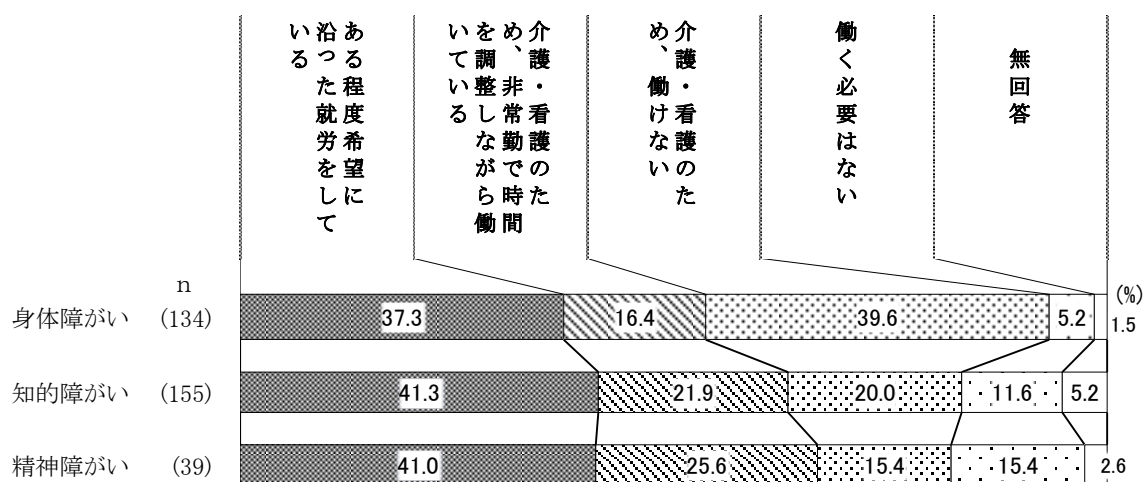
【障がい者】

障がい種別でみると、知的障がい者は「収入を伴う仕事をしている」の割合が高くなっています。



【障がい児の保護者】

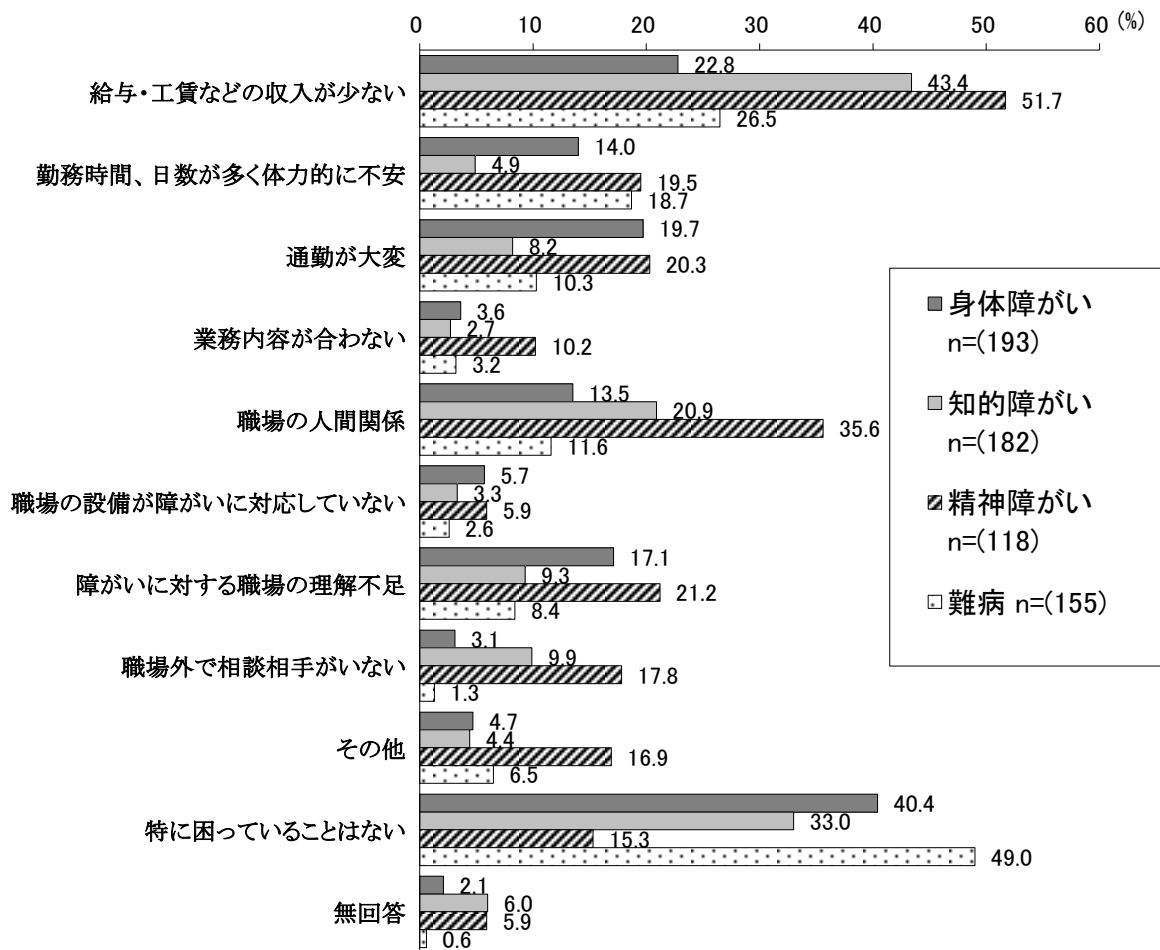
身体障がい児の保護者は「介護・看護のため、働けない」の割合が高くなっています。知的障がいと精神障がい児の保護者は「ある程度希望に沿った就労をしている」割合が高くなっています。



(2) 仕事をする上での困りごと

【障がい者】

障がい種別でみると、身体障がい者、難病患者で「特に困っていることはない」の割合が高くなっています。また、知的障がい者、精神障がい者で「給与・工賃などの収入が少ない」の割合が高くなっています。

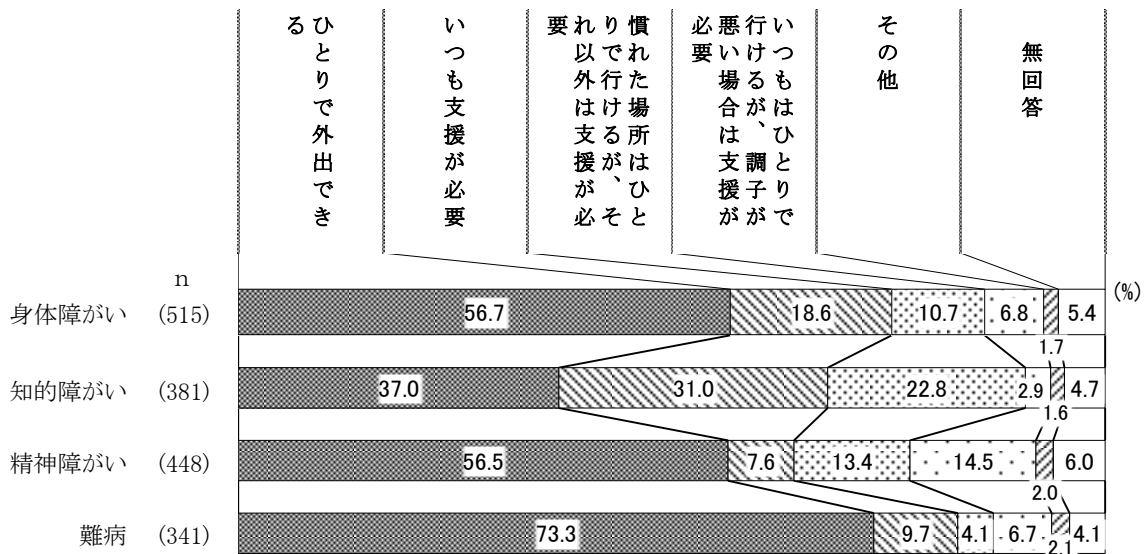


8. 外出や余暇の過ごし方について

(1) 外出時の支援の有無

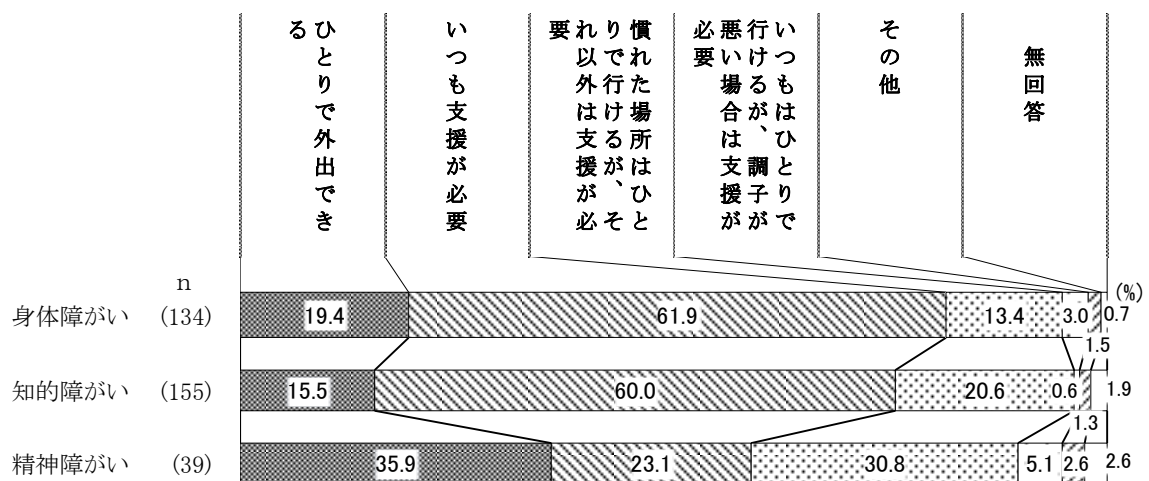
【障がい者】

どの障がい者でも、「ひとりで外出できる」の割合が高くなっています。また、知的障がい者で「いつも支援が必要」の割合が高くなっています。



【障がい児】

障がい種別で見ると、身体障がい児、知的障がい児で「いつも支援が必要」の割合が高くなっています。また、精神障がい児で「ひとりで外出できる」の割合が高くなっています。

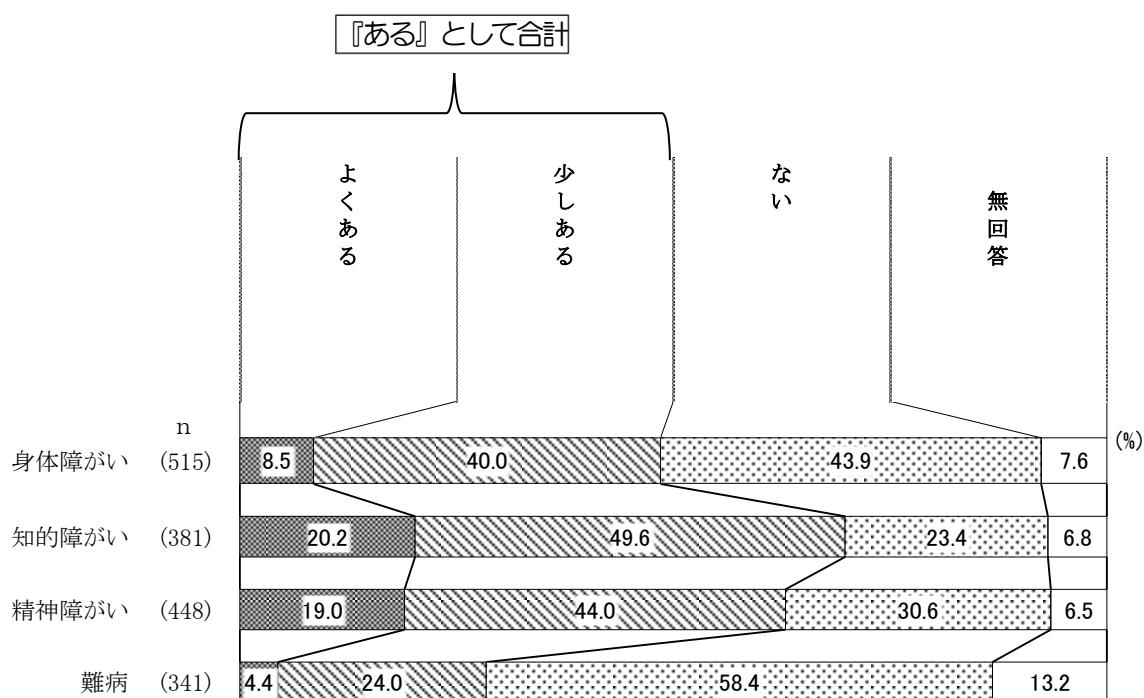


9. 差別、権利擁護などについて

(1) 差別や嫌な思いの経験

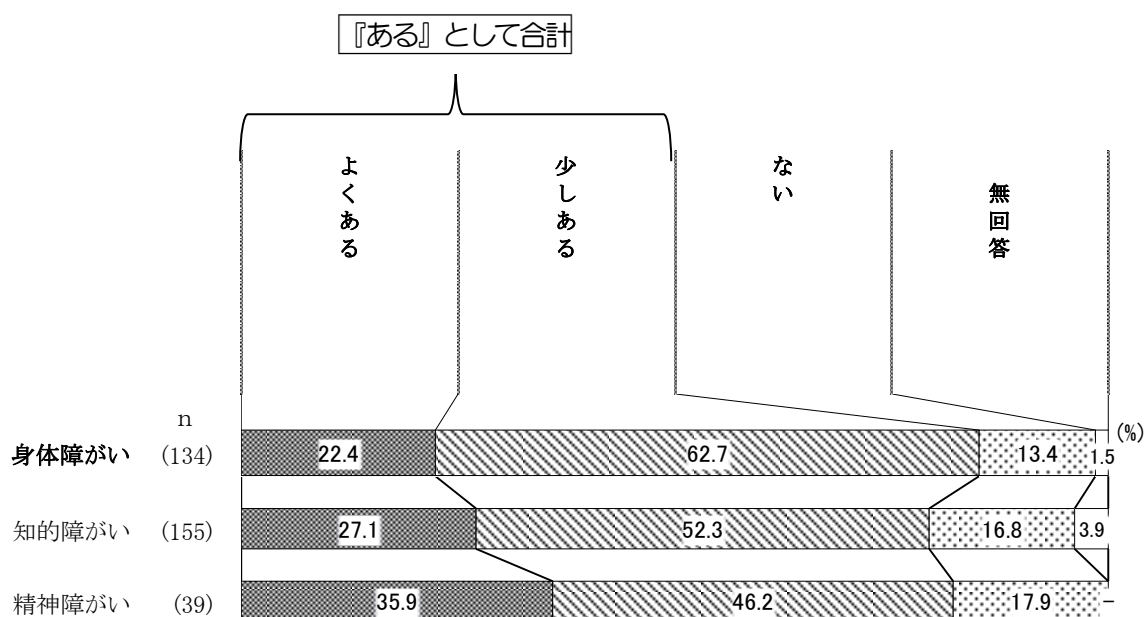
【障がい者】

「よくある」と「少しある」を足した『ある』の割合は、障がい種別で見ると、知的障がい者が最も高くなっています。一方で、難病患者では、「ない」の割合が高くなっています。



【障がい児】

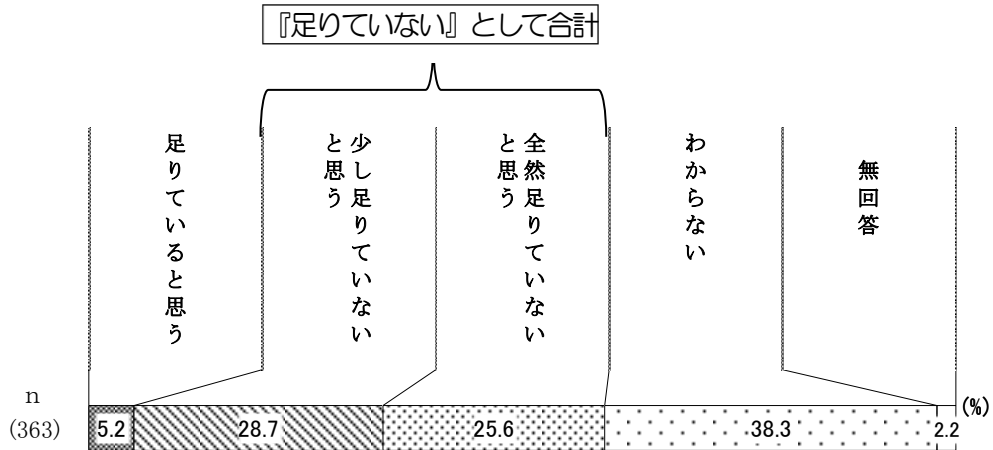
どの障がい児でも、「よくある」と「少しある」を足した『ある』の割合が高くなっています。



(2) 区民の障がい者への理解度

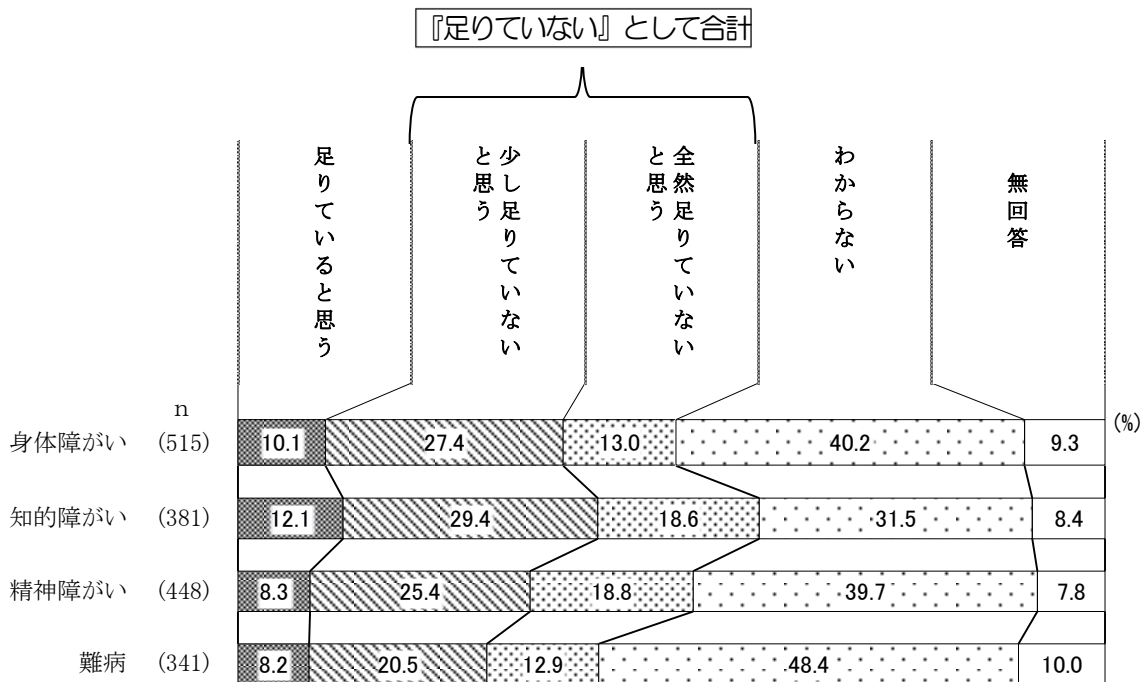
【一般区民】

「少し足りてないと思う」と「全然足りてないと思う」を足した『足りていない』の割合が高くなっています。一方で、「わからない」の割合が高くなっています。



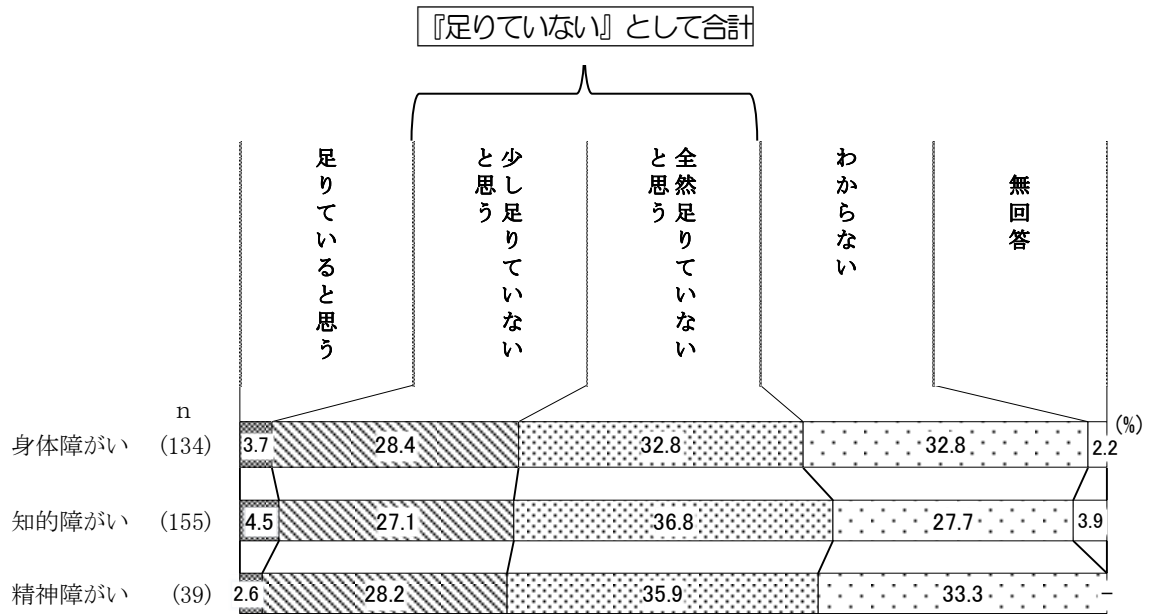
【障がい者】

身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者で「少し足りてないと思う」と「全然足りてないと思う」を足した『足りていない』の割合が高くなっています。



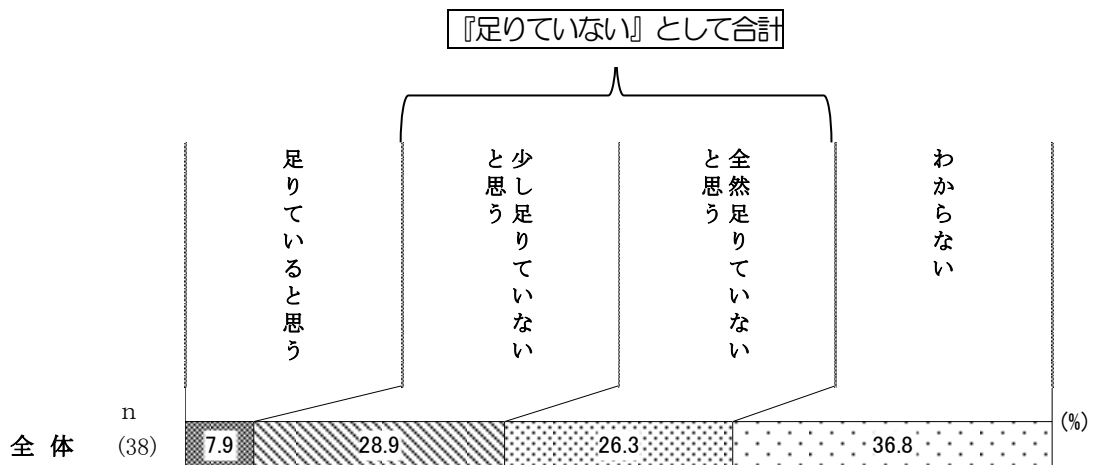
【障がい児】

どの障がい者でも、「少し足りてないと思う」と「全然足りてないと思う」を足した『足りてない』の割合が高くなっています。



【手帳を所持しない幼児（児童発達支援事業者利用者）】

「少し足りてないと思う」と「全然足りてないと思う」を足した『足りていない』の割合が高くなっています。

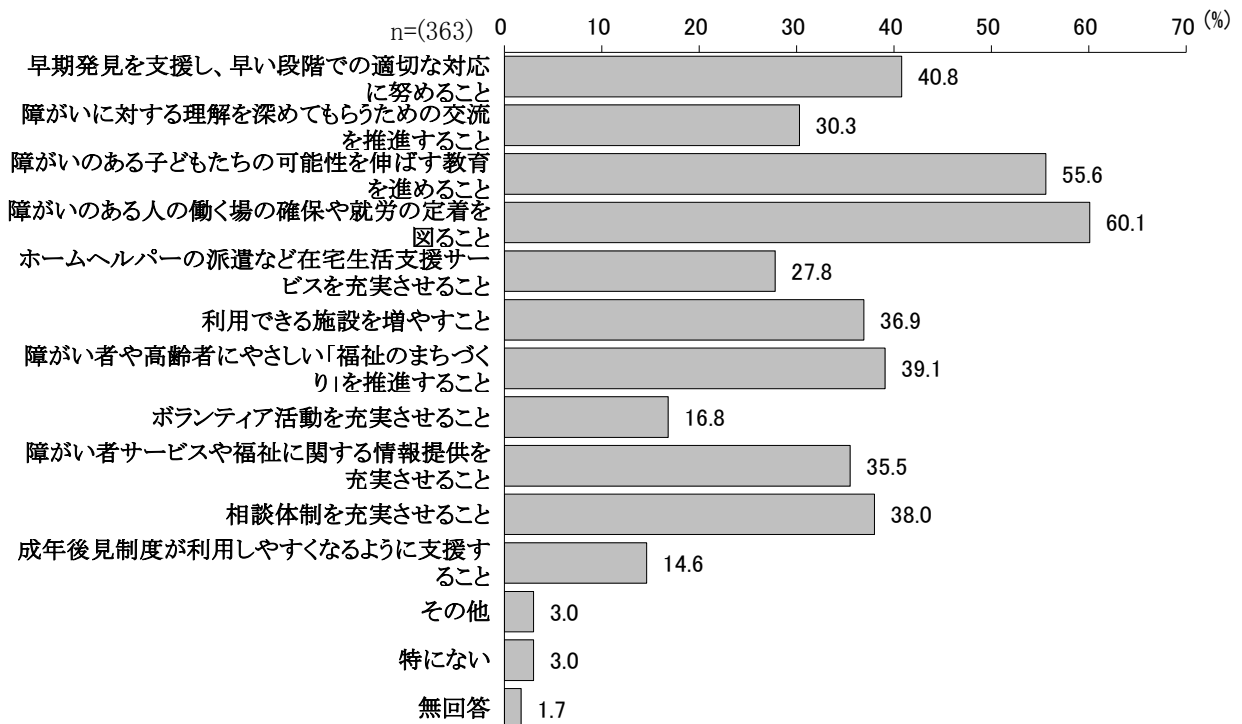


10. 取り組みなどについて

(1) 障がい者施策を進めるために充実させるべき取組

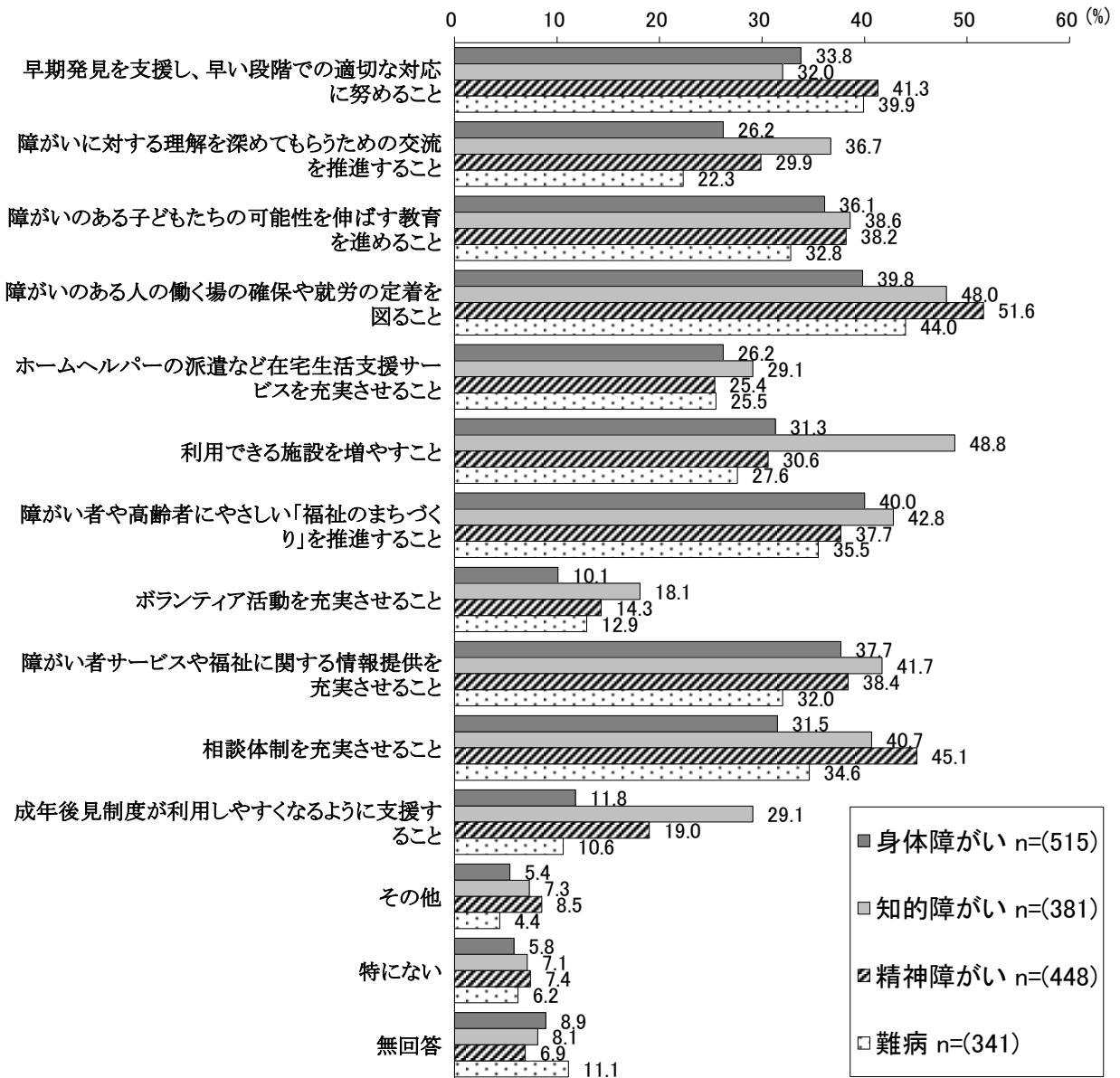
【一般区民】

「障がいのある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」の割合が最も高く、次いで「障がいのある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めること」、「早期発見を支援し、早い段階での適切な対応に努めること」となっています。



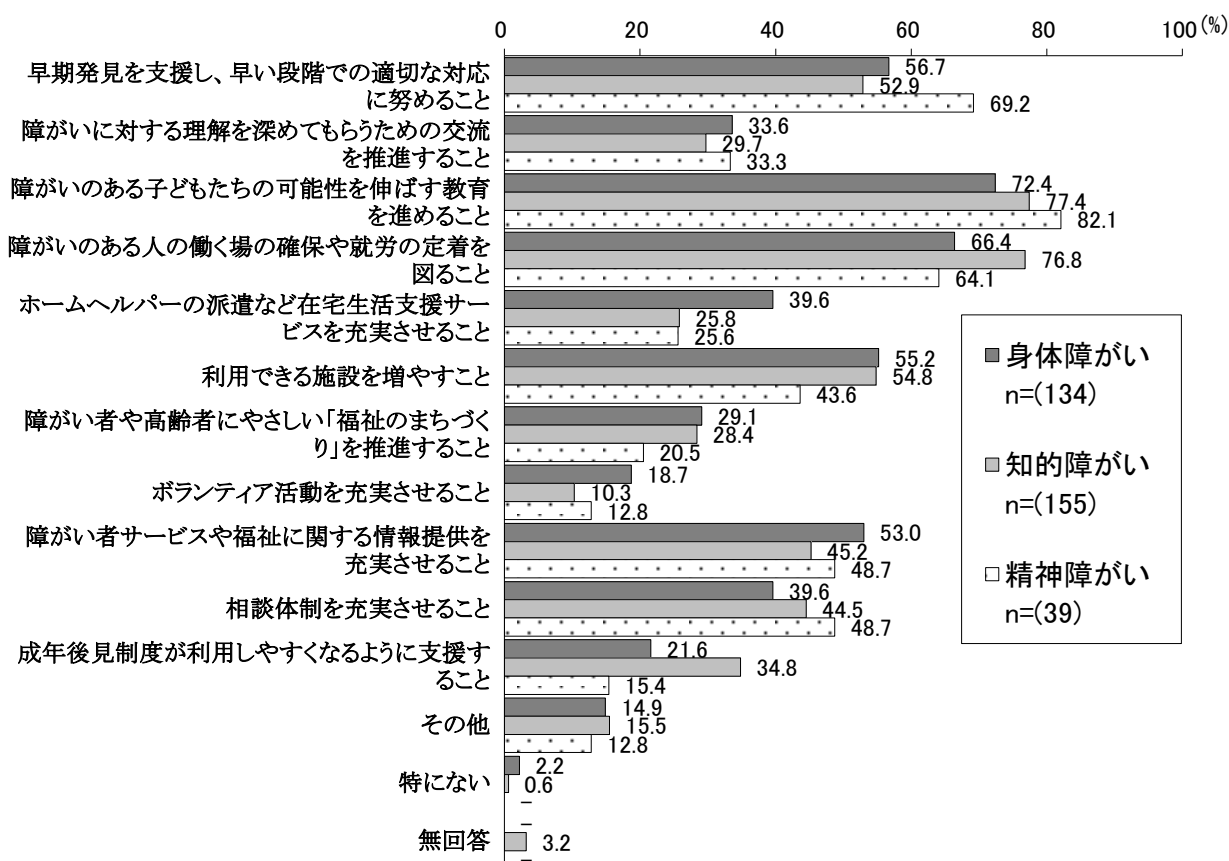
【障がい者】

障がい種別でみると、どの障がいでも「障がいのある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」の割合が高くなっています。また、知的障がい者で「利用できる施設を増やすこと」の割合が、精神障がい者で「相談体制を充実させること」の割合が高くなっています。



【障がい児】

障がい種別でみると、どの障がい児でも「障がいのある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めること」の割合が高くなっています。知的障がい児では「障がいのある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」の割合も高くなっています。精神障がい児では「早期発見を支援し、早い段階での適切な対応に努めること」の割合も高くなっています。



【手帳を所持しない幼児（児童発達支援事業者利用者）】

「障がいのある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めること」、「利用できる施設を増やすこと」、「早期発見を支援し、早い段階での適切な対応に努めること」の順に割合が高くなっています。

